

## 総務常任委員会報告事項資料

資料 番号	資 料 名	担 当 課
1	エリアブランディング構想（御幸の浜 海岸・かまぼこ通り周辺）の策定につ いて	企 画 政 策 課
2	小田原市消防本部救急ワークステーシ ョンの設置及び運用について	救 急 課

令和8年5月8日

## エリアブランディング構想（御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺）の策定について

### 1 目的及び概要

御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺（以下「対象エリア」という。）の地域特性を活かし、対象エリアの価値向上と将来像の共有を図るため、多様な関係者と対話を重ねながら、魅力向上や課題解決に向けた取組、将来像を検討し、「エリアブランディング構想」を策定した。

### 2 検討体制

本構想の策定に当たっては、対象エリアの関係者で構成するエリアブランディング構想策定事業研究会（以下「研究会」という。）を設置し、関係者との対話を重ねながら、地域住民を対象としたワークショップ等により幅広い合意形成を図るとともに、庁内関係課で構成する庁内検討会議において横断的に検討を行った。

### 3 取組状況

次の取組を通じて、対象エリアの魅力や課題を整理し、構想の検討等を進めた。

#### (1) 研究会

研究会員との議論や合意形成の場として、次のとおり、研究会を開催した。

ア 第1回：令和7年1月29日（水）

（ア）対象エリアにおける魅力や課題の共有等

イ 第2回：令和7年10月9日（木）

（イ）基本方針、具体的施策、将来像の検討

ウ 第3回：令和8年2月10日（火）

(ア) 構想案の検討等

(2) 実態調査

次の調査を通じて、研究会員や地域住民、来訪者が感じている対象エリアの魅力や課題を抽出・整理した。

ア ヒアリング調査

(ア) 目的：対象エリアで活動する関係者が感じている地域の魅力や課題、目指すべき将来像に関する意向の把握

(イ) 主な対象者：研究会員

(ウ) 実施回数：計71回、延べ172名

イ 御幸の浜海岸来訪者実態調査

(ア) 目的：御幸の浜海岸に対する来訪者のニーズ等の把握

(イ) 日時：令和6年7月28日（日）

(ウ) イベント：ODAWARA BEACH PARK PROJECT 2024

(エ) 方法：アンケート調査（聞き取り）

(オ) 回答者数：148名

ウ かまぼこ通り来訪者実態調査

(ア) 目的：かまぼこ通りに対する来訪者のニーズ等の把握

(イ) 日時：令和6年8月11日（日）

(ウ) イベント：小田原宿場祭り

(エ) 方法：アンケート調査（聞き取り）

(オ) 回答者数：110名

エ 住民アンケート調査

(ア) 目的：対象エリアにおいて地域住民が日常的に感じている魅力や課題等の把握

(イ) 日 時：令和6年11月8日（金）～11月30日（土）

(ウ) 対 象 者：対象エリア及び周辺の住民（中学生以上）

(エ) 方 法：アンケート調査（郵送またはWEB回答）

(オ) 回答者数：844名

オ 周辺観光地来訪者実態調査

(ア) 目 的：御幸の浜海岸やかまぼこ通り等に対する周辺観光地  
来訪者のニーズ等の把握

(イ) 日 時：令和7年5月12日（月）～5月27日（火）

(ウ) 方 法：アンケート調査（WEB回答）

(エ) 回答者数：310名

(3) ワークショップ

地域住民の意向を把握するため、次のとおり、ワークショップを開催した。

ア 説明会：令和7年 4月19日（土）

(ア) 内 容：事業概要やワークショップの説明

(イ) 参加者数：32名

イ 第1回：令和7年 6月14日（土）

(ア) 内 容：対象エリアの魅力と課題の共有、具体的な取組の検討

(イ) 参加者数：15名

ウ 第2回：令和7年 9月 6日（土）

(ア) 内 容：ゾーンごとの取組等の検討

(イ) 参加者数：15名

エ 第3回：令和7年12月 6日（土）

(ア) 内 容：ゾーンごとの具体的な取組の時間軸の整理

(イ) 参加者数：13名

#### (4) かわら版

構想の検討状況等を地域住民と共有するため、かわら版を作成し、自治会回覧にて配布した。

### 4 構想について

構想は次の各章で構成する。(参考資料1-1)

- ・ 1章 構想について
- ・ 2章 対象エリアの魅力と課題
- ・ 3章 基本方針
- ・ 4章 エリア価値の向上に向けた取組
- ・ 5章 将来像

### 5 今後について

将来像の実現に向けて、総合計画第1期実行計画に位置付けた「まち歩き観光」や「なりわい交流館の活用」等の既存の取組については、持続可能な姿を念頭に、市や関係団体等の実施主体を中心に関係者と相互に連携しながら、内容の強化を図る。

「安全な道路環境の整備」や「商店街のアーケードの撤去」等の新たな取組の検討・実施については、実現可能時期や実施主体の調整を行いながら、多様な関係者とともに実現に向けて進める。

# エリアブランディング構想

御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺

エリアブランディング構想  
策定事業研究会  
令和8年3月

# 目次

- 1章 構想について
  - 2章 対象エリアの魅力と課題
  - 3章 基本方針
  - 4章 エリア価値の向上に向けた取組
  - 5章 将来像
- 参考資料

# 1

## 構想について

エリアブランディング構想は、地域特性を活かし、対象エリア価値の向上と将来像の共有を目指すものです。

本構想は地域の関係者で構成されるエリアブランディング構想策定事業研究会が主体となり、多様な関係者との対話を重ねながら策定します。

# (1)構想の目的と対象エリア



対象エリアは、暮らしや観光、歴史などの資源が豊富に存在する一方で、それぞれの資源の継承や認知度不足などの課題を抱えています。

エリアブランディング構想（以下「構想」）は、これらの魅力や課題などの地域特性や既存の取組を活かして、対象エリア価値の向上と将来像の共有を目指すことを目的として策定するものです。



対象エリアの価値向上  
将来像の共有

第7次小田原市総合計画  
(市の上位計画)

エリアブランディング構想

- 【これまでの取組】
- ・街かど博物館
  - ・小田原市地域別計画（万年地区、幸地区）
  - ・日本遺産「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道」 など

- 【市の関連計画】
- ・小田原市都市計画マスタープラン
  - ・小田原市景観計画
  - ・小田原市歴史的風致維持向上計画（第2期）
  - ・小田原市観光戦略ビジョン など

## (2)策定主体とプロセス

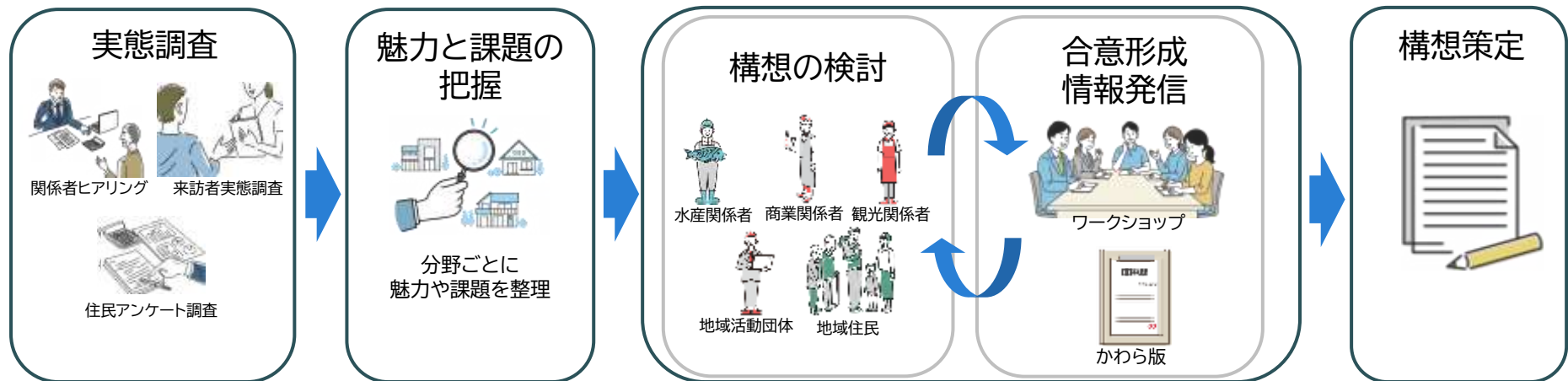
### エリアブランディング構想策定事業研究会

本構想は、地域住民や商業関係者などの多様な関係者で構成する「エリアブランディング構想策定事業研究会」（以下「研究会」）を策定主体とし、様々な取組を通じて構想の検討を進めました。



### 策定プロセス

本構想は関係者への実態調査を通じて魅力や課題を把握し、研究会を中心として基本方針や取組を検討するとともに、地域住民とのワークショップにより合意形成を図り、かわら版による幅広い情報発信を行いながら策定しました。



# (3) 検討の経緯

令和6年度			令和7年度			
検討状況		地域課題の共有	課題解決と実現後の将来イメージ	具体的施策の検討	将来都市像の検討	
①ヒアリング	事業概要説明	第1回	第2回	第3回	第4回	
②実態調査	来訪者実態調査 (かまぼこ通り/御幸の浜海岸)	住民アンケート調査		周辺観光地 来訪者実態調査		
③かわら版		第1号	第2号	第3号	第4号	第5号 第6号
④研究会			第1回		第2回	第3回
⑤庁内検討会議		第1回	第2回	第3回		
⑥ワークショップ			事前説明会	第1回	第2回	第3回

## ①ヒアリング

研究会員等の対象エリアで活動する関係者や団体等に個別の聞き取りを実施

- ・計71回
- ・延べ172人



## ②実態調査

### 来訪者実態調査 (かまぼこ通り)

小田原宿場祭りでの聞き取り調査を実施  
・回答者数110人

### 来訪者実態調査 (御幸の浜海岸)

ODAWARA BEACH PARK PROJECTの参加者等にアンケートを実施  
・回答者数148人

### 住民アンケート調査

対象エリア内及び周辺の地域住民にアンケート調査を実施  
・回答者数844人

### 周辺観光地来訪者 実態調査

市内の対象エリア周辺観光地8か所でアンケート調査を実施  
・回答者数310人

## ③かわら版

自治会回覧や市HPで実態調査の結果やワークショップの募集、構想の検討状況などを発信。

- ・計6回

## ⑤庁内検討会議

関係課職員で構成。既存計画や法令との整合確認、先進事例や構想内容の調査研究等を行う。

- ・計3回

## ⑥ワークショップ

対象エリア内の住民を対象とし、魅力や課題、取組案の検討などのプログラムを実施。

- ・計3回 (事前説明会除く)
- ・延べ43人 (事前説明会除く)



# 対象エリアの 魅力と課題

# 2

対象エリアの地域特性を踏まえ、現状を整理するとともに関係者へのヒアリングで把握した内容を、実態調査やワークショップを通じて検証し、6つの分野ごとに魅力と課題を整理しました。

# (1)対象エリアの概要

## ①対象エリアについて

### 小田原駅や小田原城に近い・歴史資源が豊富

対象エリアは小田原駅から約1 kmの距離に位置し、小田原城にも近く、観光客も多く訪れるエリアです。江戸時代には旧東海道の小田原宿として発展し、現在も歴史的な建造物や寺社などが点在しています。

### 豊かな海的环境

御幸の浜海岸は小田原駅から徒歩でアクセスでき、景色が良く、夏には海水浴を楽しむことができます。近年はメディアやSNS等による情報発信により、一年を通じて海を楽しむ方が訪れています。

### 水産加工業による発展

かまぼこ通りには昭和43年まで魚市場があり、水産加工業の集積地として栄えました。現在も老舗の蒲鉾店や干物店が立ち並び、当時の面影を感じることができます。

### 松原神社を中心とした繁栄

小田原北条氏時代からの総鎮守である松原神社やその門前に位置する宮小路、野菜の市が開かれていたことに由来する青物町など、多様な歴史的背景となりわいを有しています。

### 現在の姿

近年は、蒲鉾店をはじめとした店舗や事業所が減少する一方で、新たな集合住宅や戸建て住宅の建設が進んでいます。また、空き家や空き店舗を利用した店舗も増加しており、新たな魅力となっています。

# (1)対象エリアの概要







## ②現況図



# (1)対象エリアの概要

## ③地域特性を踏まえた分野の設定

ヒアリングやワークショップを通じて把握した対象エリアの特性を、6つの分野に整理しました。

分野	特徴	
暮らし	対象エリアには多くの住宅があり、地域住民の暮らしが根付いています。古い店舗が住宅として建て替えられるなど、環境が変化しています。	
観光	小田原ならではの「なりわい」や「店舗」があり、観光客も訪れています。新旧の店舗が混在しており、観光地として注目が集まっています。	
歴史	旧東海道の小田原宿として発展した歴史があり、歴史的な建造物や祭礼行事などが地域の誇りとなっています。	
景観	「歴史」や「なりわい」を活かした景観づくりが進められており、良好な景観への改修などが行われています。	
交通	かまぼこ通り周辺は歩行者と車両の双方が往来しています。小田原城や早川エリアなど、観光スポットから近い距離にあります。	
海	「小田原駅や小田原城から近い海」として親しまれています。蒲鉾や干物などの水産加工業が集積し、暮らしやなりわいを支えています。	

## (2)各分野の現状

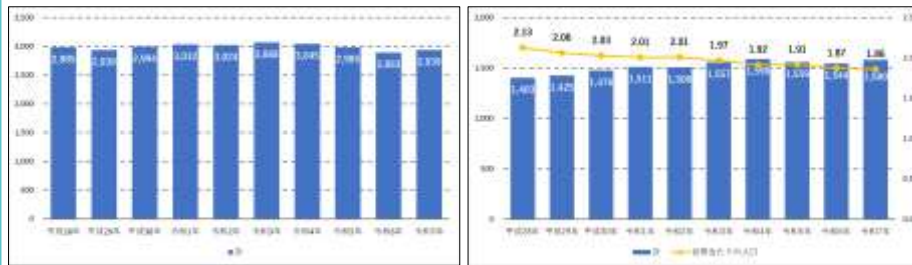
### ①暮らし

対象エリアには住宅が立ち並び、地域住民の暮らしが根付いています。近年は海岸などの自然環境や小田原駅に近い利便性などを背景に、移住者にも注目されています。一方、日常利用できる店舗の減少や防災対策への懸念などの課題もあげられています。

#### 基礎資料から見た現状

##### 人口の推移

過去10年間の人口は横ばいとなっています。世帯数は増えた一方、世帯当たりの人口は減少しています。



対象エリア内人口の推移  
(小田原市統計資料より)

対象エリア内世帯数の推移  
(小田原市統計資料より)

##### 防災

対象エリアには津波の浸水が想定されている場所もあり、近隣の共同住宅等が津波一時避難施設に指定されています。



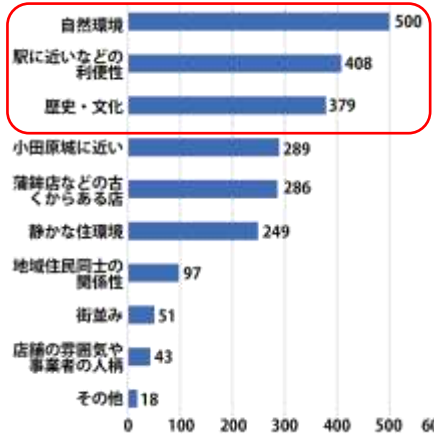
#### 実態調査から見た現状

##### 住民の意識

海岸などの自然環境や小田原駅に近い利便性が魅力である一方で、買い物環境や防災対策、空き家対策などが課題としてあげられています。

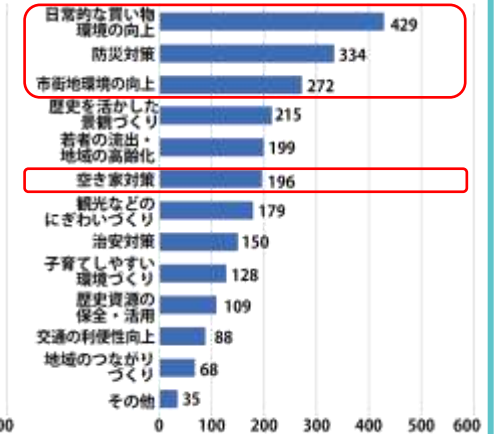
##### ■対象エリアの魅力

住民アンケート調査より(複数回答可)  
n=844 単位:人



##### ■対象エリアの課題

住民アンケート調査より(複数回答可)  
n=844 単位:人



##### ■空家率 「空家等実態調査」R4.3より

	建物棟数	空家等	空家率
本町2丁目	271	9	3.32%
本町3丁目	372	32	8.60%
浜町3丁目	405	26	6.42%
対象エリア(周辺含む)合計	1,048	67	<b>6.39%</b>
小田原市	82,326	1,389	1.69%

## (2)各分野の現状

### ②観光

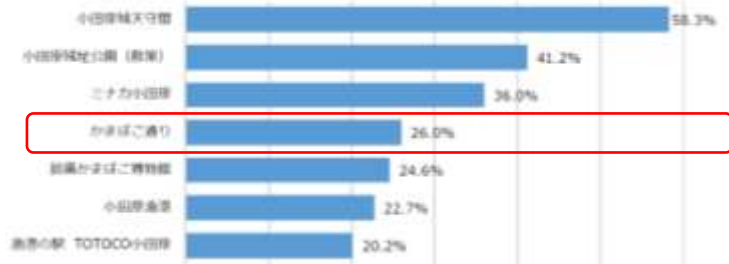
市内で最も観光客が訪れる小田原城にほど近く、多くの来訪者が立ち寄るエリアです。歴史的な街並みや店舗の個性が魅力である一方、かまぼこ通りの認知度などからも、観光情報の発信や回遊性を促す仕組みが課題にあげられています。

#### 基礎資料から見た現状

##### 観光客の動向

かまぼこ通りは小田原城天守閣、小田原城址公園、ミナカ小田原に次ぐ観光客の立ち寄り場所となっています。

##### ■小田原市内の観光客立ち寄り場所 (小田原市観光協会・2024年度実施アンケート)



##### ■施設ごとの年間観光客数 (神奈川県入込観光客調査より) 単位:千人

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
御幸の浜海水浴場	6	-	-	6	6	5
小田原宿なりわい交流館	41	24	28	43	46	*32
小田原城址公園	3,235	1,339	1,616	2,426	2,780	2,832

\*令和6年度は耐震改修工事により一時休館

##### 街かど博物館

街かど博物館は、工夫を凝らした展示、店主との会話、さらには体験を通して、産業に関わるひと、製品、ものづくりの結びつきを知ってもらい、小田原の魅力を高めようとする取組です。



陶彩ぎやらいい (松崎屋陶器店)



かまぼこ歴史館 (鱈吉)



かつおぶし博物館 (龍常)



染め織り館 (山田呉服店)



ひもの工房 (早瀬幸八商店)

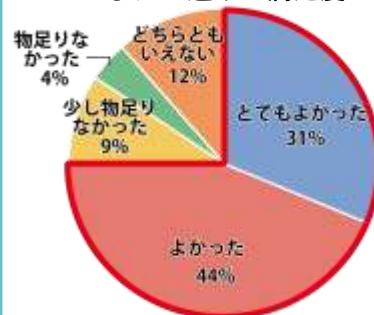
#### 実態調査から見た現状

##### 来訪者のニーズ

来訪者の満足度は高い一方で、訪れたことがない理由として「知らないから」が75%を占めています。歴史資源を活かしたまち歩きの充実や情報発信の強化が求められています。

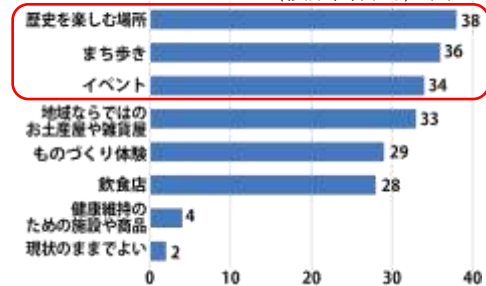
[かまぼこ通りを訪れたことがある方] 周辺観光地来訪者実態調査より(n=96)

##### ■かまぼこ通りの満足度



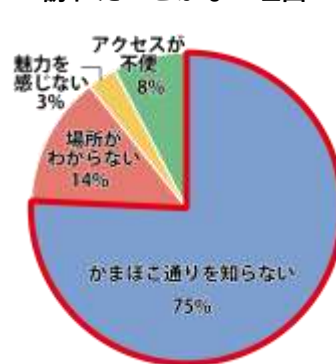
##### ■より魅力的になるためのコンテンツ

(複数回答可) 単位:人



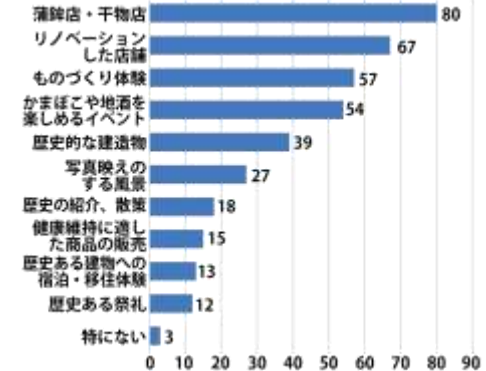
[かまぼこ通りを訪れたことがない方] 周辺観光地来訪者実態調査より(n=144)

##### ■訪れたことがない理由



##### ■興味のある取組やコンテンツ

(複数回答可) 単位:人



## (2)各分野の現状

### ③歴史

旧東海道の小田原宿として発展した歴史を背景に、様々な取組が行われてきました。歴史的な街並みや老舗店舗が対象エリアの魅力となっており、毎年5月に開催される「松原神社例大祭」は、地域の伝統行事として受け継がれています。

#### 基礎資料から見た現状

##### 宿場町・漁師町の形成

旧東海道の小田原宿として栄えるとともに、豊かな漁場に恵まれたことから漁師町としてもまちが形成されました。街道の往来とともに水産加工業が発展し、青物町では北条氏時代より野菜の市が開かれるなど、商業の歴史を有しています。

##### 歴史を活かしたまちづくり

小田原市歴史的風致維持向上計画（第2期）の重点区域に位置付けられ、歴史資源を活かしたまちづくりが進められています。

旧網問屋を活用した小田原宿なりわい交流館は、耐震改修工事を経て、令和7年8月にリニューアルオープンし、さらなる活用が期待されます。



小田原宿なりわい交流館

地域住民・観光客の憩いの場や、誰でも立ち寄れるお休み処、市民活動の場として利用されている。

##### 歴史的風致形成建造物

小田原市歴史的風致維持向上計画（第2期）では、“小田原市の歴史的風致の維持向上を図るうえで必要かつ重要な建造物”として、小田原宿なりわい交流館（登録有形文化財）を含む3件が指定、2件が指定候補となっています。



籠清  
(指定)



早瀬幸八商店  
(指定)



松原神社  
(指定候補)



旧鈴廣本町店  
(指定候補)

#### 実態調査から見た現状

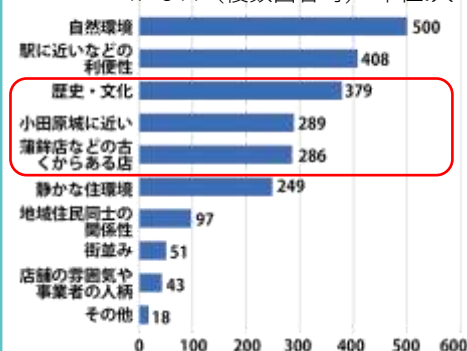
##### 歴史・文化の魅力

歴史や文化、老舗の店舗は地域住民・来訪者双方にとって魅力となっています。

##### ■住民にとっての対象エリアの魅力

住民アンケート調査より

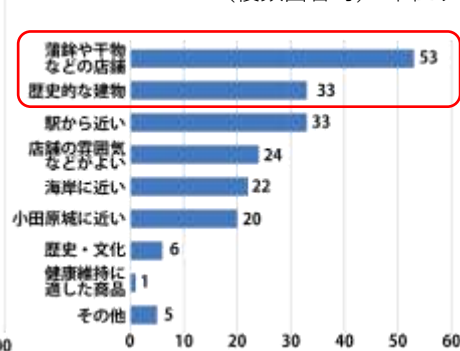
n=844（複数回答可） 単位:人



##### ■来訪者にとっての対象エリアの魅力

周辺観光地来訪者実態調査より

n=96（複数回答可） 単位:人



##### 松原神社の現状

松原神社例大祭は、漁師の祭りを起源とする市内最大規模の祭りで、約30基の神輿が町内を巡ります。一方で、認知度は十分とは言えず、情報発信の強化が課題となっています。

##### ■松原神社例大祭の認知度

周辺観光地来訪者実態調査より  
(n=240)



宮入の様子

## (2)各分野の現状

### ④景観

これまで街並み環境の向上や景観形成の取組が進められ、空き店舗等を活用した新たな店舗も生まれています。一方で、古い店舗が集合住宅に建て替わるなど、歴史的な景観が失われつつあることが課題となっています。

#### 基礎資料から見た現状

##### 街並み環境の向上に向けた取組

景観に配慮した道路改良、地域活性化を目指す民間団体「小田原かまぼこ通り活性化協議会」によるにぎわい創出の取組など、かまぼこ通り周辺では街並み環境の向上が図られてきました。



景観に配慮した道路改良



山車小屋の修景



軒先へのちょうちん設置

##### 景観形成の取組

令和5年3月に「かまぼこ通り周辺地区」が、小田原市景観計画の景観計画重点区域に位置付けられました。建築物や工作物、屋外広告物に色彩等の基準が定められています。



景観形成のイメージ

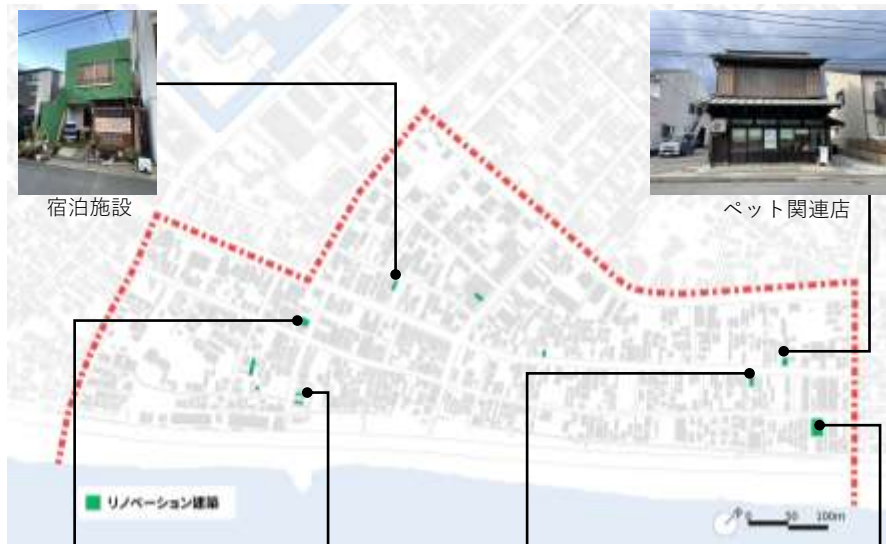


#### 実態調査から見た現状

##### 景観に関する現状

古い建物をリノベーションした店舗がオープンし、新たな魅力となっている一方で、空き店舗も増えており、良好な景観の維持が課題となっています。

##### ■対象エリアのリノベーション状況（現地調査より）



ベーカリー



ジェラート店



喫茶店



飲食店

## (2)各分野の現状

### ⑤交通

小田原城や早川エリアなど徒歩圏内に魅力的なスポットが点在し、歩いて回遊できる立地特性を有しています。一方で、通り抜ける車両が多く、通学時の安全確保に不安があるほか、来訪者向けの駐車場不足などの課題もあげられています。

#### 基礎資料から見た現状

##### アクセシビリティ

小田原駅まで約1kmの徒歩圏内に位置しています。国道1号に複数のバス停が設置されるとともに、観光回遊バスの運行ルートにも含まれています。

また、民間のコインパーキングが複数ありますが、海側及び東側は駐車場が限られており、場所により自動車でのアクセシビリティに差があります。



交通に関する施設等の分布



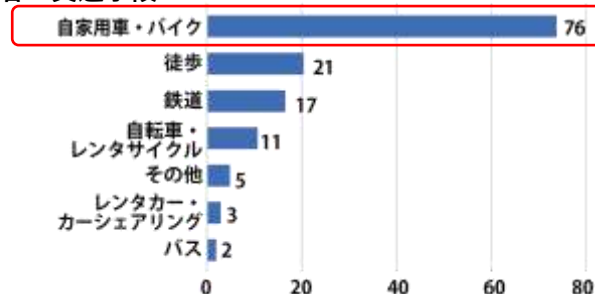
#### 実態調査から見た現状

##### 来訪者の交通手段

御幸の浜海岸は自家用車・バイクによる来訪者が中心となっています。アクセシビリティの向上に求められるものとして回遊バス、レンタサイクル、駐車場整備、徒歩ルート用のマップなどがあげられました。

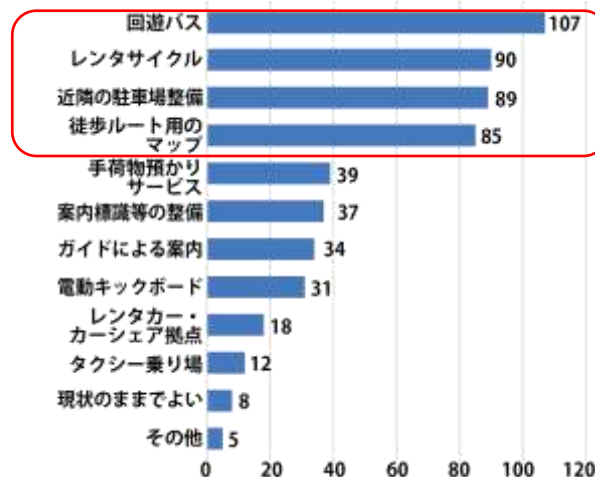
##### ■御幸の浜海岸来訪者の交通手段

御幸の浜海岸  
来訪者実態調査より  
n=133(複数回答可)  
単位:人



##### ■より魅力的なエリアになるため「アクセス面」で必要なこと

周辺観光地来訪者  
実態調査より  
n=240(複数回答可)  
単位:人



## (2)各分野の現状

### ⑥海

小田原駅や小田原城に近い立地から多くの来訪者が訪れています。海辺での行事やイベントには多くの来訪者等が参加するとともに、日常においては地域住民の憩いの場となっています。

#### 基礎資料から見た現状

##### 利用状況

##### ■地域住民等

海岸では、どんど焼きやオショロ様（精霊流し）などの伝統行事が行われています。松原神社例大祭では、神輿が海に入る「御浜降り」が執り行われます。地元有志による清掃活動も定期的に行われています。



御浜降りの様子

##### ■来訪者

近年、「海へと続くトンネル」（西湘バイパスの防潮扉）が注目を集めるなど、景色の良さや写真映えする風景が魅力となり、多くの来訪者が訪れています。景色を活かしたロケーション撮影も行われています。



「海へと続くトンネル」の様子

##### ■イベントなど

ビーチでのアクティビティやバリアフリーで楽しめるマリンスポーツの体験などのイベントが開催されています。令和6年には地元有志による花火大会が開催され、かつてを懐かしむ方などで賑わいました。毎年夏には海水浴場が開設されています。



イベントでパラソルが並ぶ様子

#### 実態調査から見た現状

##### 来訪者のニーズ

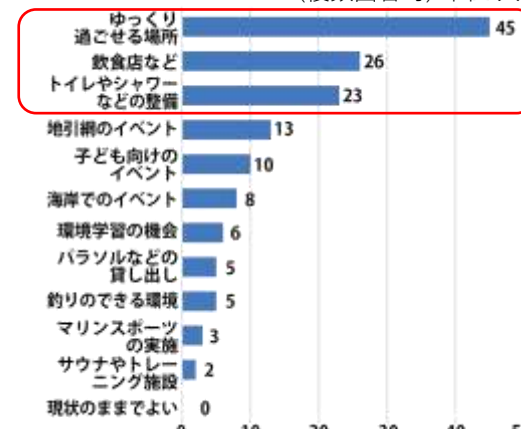
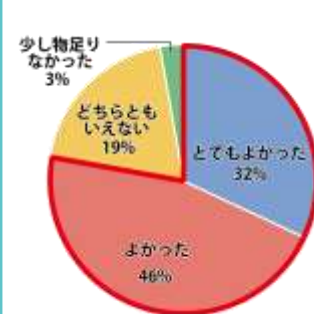
来訪者の満足度は高い一方で、訪れたことがない理由として「知らない」「場所がわからない」が8割以上を占めています。また、「ゆっくり過ごせる環境」を求める声が多く寄せられています。

[御幸の浜を訪れたことがある(30%)] 周辺観光地来訪者実態調査より(n=72)

##### ■御幸の浜海岸の満足度

##### ■より魅力的になるためのコンテンツ

(複数回答可) 単位:人

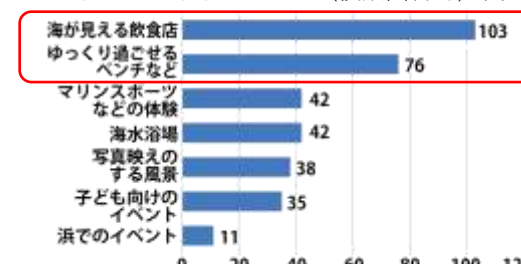
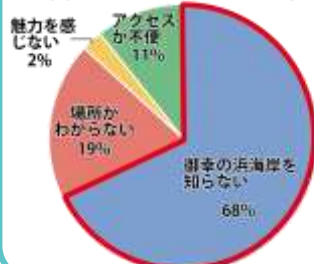


[御幸の浜を訪れたことがない(70%)] 周辺観光地来訪者実態調査より(n=168)

##### ■訪れたことがない理由

##### ■興味のある取組

(複数回答可) 単位:人



### (3) 魅力と課題

これまで実施したヒアリングや実態調査、ワークショップを通じて、地域住民、商業者、来訪者など、様々な視点から魅力と課題を把握し、それぞれの立場に共通する魅力と課題を分野ごとに整理しました。

分野	魅力	課題
暮らし	<ul style="list-style-type: none"><li>自治会や商店街など、地域の活動が活発である</li><li>地域の魅力から移住者が増加している</li><li>蒲鉾やちくわなど、地域の特産品が充実している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>日常の買い物ができる店舗や子どもの遊び場が少ない</li><li>津波などの防災対策に懸念がある</li><li>空き家が多く十分に活用できていない</li><li>移住者などが地域活動に参加する機会が不足している</li></ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"><li>歴史や文化、海などの多様な魅力がある</li><li>新たな事業者による新規出店が増加している</li><li>特徴ある店舗が多く、注目を集めている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>地域ならではの土産や商品、体験が少ない</li><li>蒲鉾店の減少等を受け、店舗が減少している</li><li>観光客による住環境への配慮が不十分である</li></ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"><li>城下町や宿場町の面影が残っている</li><li>古い通りの名称などが残っている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>神輿や山車の担ぎ手不足により文化の継承に不安がある</li><li>子どもが地域の歴史を学ぶ機会が不足している</li><li>小田原宿なりわい交流館が十分に活用できていない</li></ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"><li>小田原宿なりわい交流館周辺は、景観が整っており雰囲気統一感がある</li><li>蒲鉾店などの歴史や風情のある店舗が残っている</li><li>歴史的な建造物を活用した魅力的な店舗がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>空き店舗が多く、十分に活用できていない</li><li>建物が建て替わり、歴史的な景観が失われつつある</li><li>対象エリア全体では店舗と住宅が混在しており、景観の統一が難しい</li></ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"><li>小田原駅から約1kmの距離に位置している</li><li>徒歩で散策できる範囲に、多くの魅力が集まっている</li><li>レンタサイクルや電動キックボードのスポットがある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>かまぼこ通りの交通量が多く歩行者の安全性が低い</li><li>小田原駅や周辺の観光地を往来する交通手段が少ない</li><li>来訪者用の駐車場や駐輪場が不足しているとの声が多いが、認知されていない駐車場も存在する</li></ul>
海	<ul style="list-style-type: none"><li>きれいな海や砂浜、静かな環境が魅力的である</li><li>小田原駅や小田原城から近く、徒歩で海へ行ける</li><li>清掃活動などを通じた地域のコミュニティが存在する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>漁場とレクリエーションとの棲み分けが不十分である</li><li>海の利用に関するルールやマナーの認知度が低い</li><li>海を活かす取組や機会が不足している</li></ul>

# 3

## 基本方針

対象エリアの特性を活かし、魅力の向上につなげるための基本方針を設定します。

また、対象エリア内に存在する多様な地域特性を踏まえ、ゾーンごとのコンセプトを示します。

## (1)基本方針

2章で整理した対象エリアの特性を踏まえ、地域の魅力を高めるとともに魅力を受け継ぎ、対象エリアの価値向上につなげるため基本方針を定めます。

### 対象エリアの魅力

利便性の高い立地

なりわいの魅力

旧東海道  
小田原宿の歴史

豊かで美しい  
自然環境

静かで暮らしやすい  
住環境

個性の光る  
魅力的な店舗

歴史的な街並みと  
伝統行事

駅から  
歩いて行ける海

### 基本方針

自然と歴史が織りなす暮らしやなりわいの魅力を高め、継承する

#### 方針1

暮らしを守り、  
住み続けたいまちを創る

御幸の浜海岸の自然環境や地域住民の交流など、対象エリアならではの魅力的な暮らしがあります。移住者を受け入れながら、地域のコミュニティを中心とした住み続けたいまちを実現します。

#### 方針2

歴史や文化、なりわいへの  
理解を広げる

地域住民が歴史や文化を理解し、発信することで来訪者を呼び込みます。多様な体験や交流の機会を通じて地域住民、来訪者がともに学び、育てながら未来へ継承していきます。

#### 方針3

思い思いに海辺の環境を楽しむ

ゆったりと過ごせる海を基本に、季節のイベント等を通じて海を楽しむ機会を創出します。豊かで美しい海の自然環境を、多様な関係者が自ら守り、受け継いでいきます。

## (2)ゾーンごとのコンセプト

対象エリアには多様な魅力や特性が存在し、求められる役割も異なることから、対象エリアを4つにゾーニングし、各ゾーン  
の特性を活かした将来像を示すとともに、相互に連携することで対象エリア全体の魅力向上を図ります。



# 4

## エリア価値の向上に 向けた取組

3章の基本方針に基づき、6つの分野ごとに具体的な取組を検討しました。

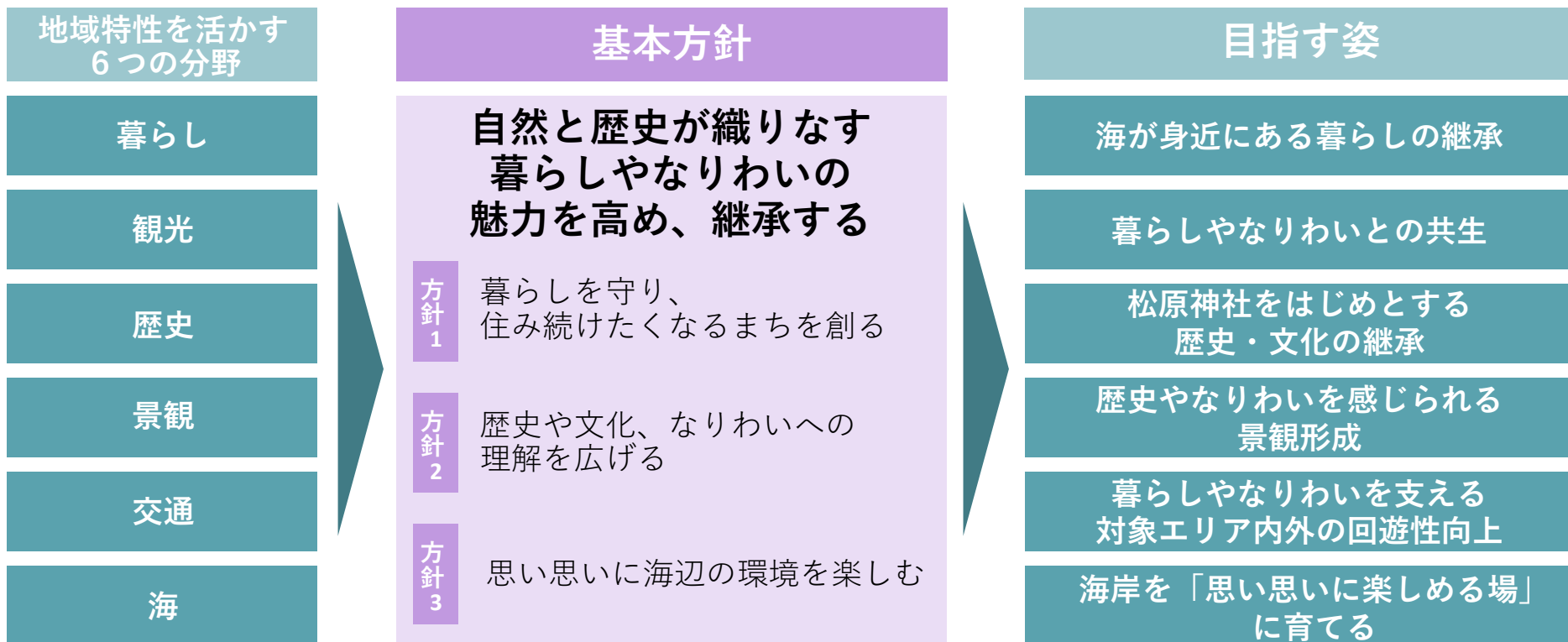
これらの取組は地域の多様な主体が担い手になることを想定し、既存の取組を基盤としながら、おおむね15年先の姿を見据えて位置付けています。

# (1)取組の考え方

## 取組の全体像

3章で設定した基本方針に基づき、分野ごとに目指す姿を示すとともに、現在の取組をベースに維持・発展させながら、構想に位置付けるべき取組を検討しました。

それぞれの目指す姿や取組は、概ね15年先をイメージしており、研究会員など多様な関係者が担い手となることを想定しています。



## (2)求められる取組

### 【暮らし】 海が身近にある暮らしの継承

海とともに発展してきた対象エリアでは、日常の様々な場面で海を身近に感じることができます。  
対象エリアの魅力を活かして移住者を受け入れながら、海が身近にある暮らしを未来へ継承していきます。

#### 対象エリアの魅力を活かして 住環境を維持・発展させる

子育てしやすく、子どもの遊びや学びが充実し、高齢者等も安心して暮らせる環境を維持します。自然環境、なりわい、店舗、施設を活かした取組で暮らしを彩ります。

#### 地域交流を通じて住民自ら 地域の魅力を再確認し来訪者へ発信する

対象エリアの暮らしに共感する新たな住民を受け入れ、魅力を共有します。多様な交流を通して、新旧の地域住民が地域の魅力を再確認し、地域内外に発信します。

#### 1 移動販売等による買い物支援

移動販売などの食料品や日用品等の買い物の場をつくります。

#### 2 子どもの学びの場づくり

小田原宿なりわい交流館等を活用して、子どもを対象とした地域の歴史やなりわいを学ぶ機会をつくります。

#### 3 子どもが楽しめるイベントや活動機会の創出

将来の担い手となる子どもたちと地域との関わりをつくります。  
参加型や体験型のイベント、活動などを実施・継続します。

#### 4 津波避難ビルの周知・指定の促進

対象エリア内外で津波避難ビルを周知し、新たに建設される共同住宅等に、指定の働きかけを行います。

#### 5 利活用可能な空き家の市場流通の促進

ワンストップ窓口による空き家相談や仲介支援などにより、空き家の利活用を図ります。

#### 6 住民同士の多様な交流の場づくり

地域における交流の場をつくるとともに、移住者等も気軽に参加でき、地域を知ることのできる場を提供します。

#### 7 地域住民と来訪者の交流を通じた地域の魅力発信

地域住民と来訪者との交流を通して、暮らしの魅力を共有するとともに、その魅力を発信し、新たな住民の受け入れを目指します。

#### 8 食育体験の実施

対象エリア内の飲食店等と連携して、食に関する体験や学びの場をつくります。

## (2)求められる取組

### 【観光】 暮らしやなりわいと共生

豊かな自然環境や歴史が感じられる暮らしを地域の魅力として発信するとともに、体験の機会をつくります。魅力に共感する来訪者を受け入れ、暮らしやなりわいと共生する観光スタイルを発信します。

#### 体験を通じて地域の魅力を感じられ 何度も訪れたいまちをつくる

今ある資源を活かすことで、対象エリアならではの様々な交流や体験の機会を提供します。リピーターを増やし、移住者や関係人口の増加を目指します。

#### 対象エリアの特徴を活かして 多様な魅力を発信・提供する

海の自然環境、旧東海道の歴史、商店街のにぎわいなど、多様な魅力を対象エリア全体で発信します。対象エリアが一体となって来訪者を受け入れ、魅力を体験できる環境を整えます。

#### 9 新規出店や既存店舗に対する支援

商工会議所等と連携し、起業支援や事業の継続支援を実施します。

#### 10 なりわいなどの体験プログラムの実施

小田原宿なりわい交流館や近隣の蒲鉾店等との連携により対象エリアならではのなりわいを体験できる機会をつくります。

#### 11 まち歩きや観光案内の充実

来訪者に多様な魅力を発信し、店主や住民等と交流できるまち歩きを実施します。

#### 12 飲食店や土産物店等の店舗の魅力発信

飲食やお土産、体験などの多様な店舗等の魅力や情報を、対象エリアが一体となって発信します。

#### 13 スタンプラリーや謎解きによる回遊促進

スタンプラリーや謎解きなどゲーム性のある取組を通じて、対象エリア内外を楽しく回遊できる環境を充実させます。

#### 14 観光案内における多言語化の充実

国外からの来訪者に対しても、対象エリアの歴史や文化をわかりやすく発信します。

#### 15 宿泊につながる情報発信の推進

地域の宿泊施設の情報発信を強化し、来訪者の滞在を促すことで、地域の魅力に触れる機会を広げます。

#### 16 食をテーマとしたイベント等の実施

商店街や店舗等と連携して、バル、ストリートマルシェ等を実施します。

## (2)求められる取組

### 【歴史】 松原神社をはじめとする 歴史・文化の継承

豊かな歴史を地域内外に発信し、様々な発想による活用を支援するとともに、次世代を担う子どもたちへ継承します。

#### 地域の歴史・文化を来訪者と共有し 未来へ受け継ぐ

地域住民が歴史・文化を理解し、来訪者に発信するとともに、未来へ継承していきます。伝承の機会の充実や歴史的な建造物の活用など、歴史を活かした魅力づくりを行います。

#### 17 寺社や祭礼などの歴史の情報発信

対象エリアを特徴づける寺社の歴史や祭礼行事の情報などを、様々な主体が運営するホームページ等を活用し、発信します。

#### 18 地域の歴史を知り、伝える機会の創出

子どもたちや移住者などが地域の歴史を知り、触れる機会をつくれます。

#### 19 歴史的な建造物の保存・活用

歴史的風致形成建造物への指定など、歴史的な建造物を保存・活用する取組を支援します。

#### 20 小田原宿なりわい交流館の保存・活用

対象エリアの共有資源として、地域住民による多様な活用を進めます。

### 【景観】 歴史やなりわいを感じられる 景観形成

対象エリアの歴史やなりわいを感じられる景観づくりを行います。将来像を共有し、多様な主体と連携を図りながら取り組めます。

#### 歴史やなりわいを感じられ にぎわいのある街並みをつくる

景観計画重点区域を中心に、行政や建物所有者、事業者等が協働して街並みづくりを行います。また、空き店舗の活用を進めます。

#### 21 良好な景観形成に向けた取組・支援

景観計画重点区域の建物等への修景支援を通じて、優れた景観への誘導を促進し、対象エリアの特性を踏まえた良好な景観形成を目指します。

#### 22 空き店舗の活用

空き店舗の改修費用や新規出店に要する費用を補助し、空き店舗の利活用を促進します。

#### 23 通りの風情を感じられる装飾の設置

軒先のちょうちんなど、通りの風情を感じられる装飾を設置し、地域の魅力を視覚的に高めます。

#### 24 アーケードの適正な維持管理

商店会によるアーケードの撤去や改修など、安全で快適な歩行空間の確保に向けた維持管理を行い、景観にも配慮します。

## (2)求められる取組

### 【交通】 暮らしやなりわいを支える 対象エリア内外の回遊性向上

対象エリア内外の回遊性を高めるとともに、地域住民・来訪者双方にとって安全な道路環境を整備することで、快適な移動を実現し、商業機会の拡大を図ります。

#### 対象エリア内外の回遊性と安全性向上を 図り、安全で快適な移動を実現する

多様な交通手段により対象エリア内外の回遊を促進することで、魅力を体験する機会を創出します。  
また、車両の通り抜けや速度の抑制を図ります。

- 25 **レンタサイクル、電動キックボード等の活用促進**  
レンタサイクルやキックボード等により、対象エリア内外の回遊を促進します。
- 26 **回遊バスの利用促進**  
小田原駅や周辺の観光スポットを結ぶ回遊バスの利用を促進します。
- 27 **安全な道路環境の整備**  
歩行空間や交差点のカラー化、車両の減速を促す路面標示等を行います。
- 28 **歩行者が休憩できる場所の確保**  
店舗内や広場等のスペースを活用して、回遊する歩行者が休める場所を提供します。

### 【海】 海岸を「思い思いに楽しめる場」 に育てる

景色やゆったりと過ごせる環境など、御幸の浜海岸の魅力を守りながら、住民、事業者、来訪者など多様な主体とともに海を楽しめる環境を整えていきます。

#### 多様な関係者が協働して環境を守りながら 海の魅力を活かす

ルールやマナーの理解を通じて、海を地域の貴重な資源として守り、共有します。地域住民や来訪者などの多様な主体が担い手となり、海の魅力をさらに高める取組を進めます。

- 29 **美しい海を守るための仕組みづくり**  
美しい海を守るため、住民や子どもたち、事業者、来訪者など、誰でも参加できる清掃活動を行います。海岸付近の公衆トイレを改修し、快適に過ごせる環境を整えます。
- 30 **海面利用のルール・マナーの周知**  
海面利用のルールやマナーを周知し、誰もが安心・安全に楽しめる環境づくりを行います。
- 31 **海や海岸でのイベントの実施**  
対象エリアの住環境に配慮しながら、海や海岸を活用し地域住民も参加できるイベントを実施します。
- 32 **マリンアクティビティなどの体験の充実**  
海や海岸を活用したマリンアクティビティなどの体験機会の充実を図ります。
- 33 **心地よい滞在を支援する備品の貸し出し**  
海岸でゆっくり過ごせるよう、ハンモックや折りたたみ椅子を近隣の店舗等で貸し出します。

# 5

## 将来像

5章では、おおむね15年先をイメージし、ゾーンごとの将来像を描きます。

対象エリアに関わる多様な主体が将来像を共有し、それぞれの役割を果たしながら取組を推進していきます。

# (1)ゾーンごとの将来像

## かまぼこ通り西ゾーン

歴史的な建造物などが活用され、旧東海道の歴史や蒲鉾づくりなどのなりわいを発信し、体験できるゾーンとなります。対象エリアの入口として情報発信等の機能が充実し、小田原城などの周辺エリアとをつなぐ回遊の起点となります。

### 良好な景観形成に向けた取組・支援

景観計画重点区域の建物等への修景支援を通じて、優れた景観への誘導を促進し、対象エリアの特性を踏まえた良好な景観形成を目指します。

### なりわいなどの体験プログラムの実施

小田原宿なりわい交流館や近隣の蒲鉾店等との連携により対象エリアならではのなりわいを体験できる機会をつくりま

### 回遊バスの利用促進

小田原駅や周辺の観光スポットを結ぶ回遊バスの利用を促進します。

### 利活用可能な空き家の市場流通の促進

ワンストップ窓口による空き家相談や仲介支援などにより、空き家の利活用を図ります。



### 子どもの学びの場づくり

小田原宿なりわい交流館等を活用して、子どもを対象とした地域の歴史やなりわいを学ぶ機会をつくりま

### レンタサイクル、電動キックボード等の活用促進

レンタサイクルやキックボード等により、対象エリア内外の回遊を促進します。

### 宿泊につながる情報発信の推進

地域の宿泊施設の情報発信を強化し、来訪者の滞在を促すことで地域の魅力に触れる機会を広げま

### スタンプラリーや謎解きによる回遊促進

スタンプラリーや謎解きなどゲーム性のある取組を通じて、対象エリア内外を楽しく回遊できる環境を充実させま

# (1)ゾーンごとの将来像

## かまぼこ通り西ゾーン

小田原宿なりわい交流館は、住民や来訪者が気軽に訪れる「情報発信の拠点」となります。  
広場などの屋外空間を活用し、地域住民や来訪者が集い、まち歩きやマルシェ、子どもが楽しめるイベントなどの多様なアクティビティを提供します。

### 小田原宿なりわい交流館の保存・活用

対象エリアの共有資源として、地域住民による多様な活用を進めます。

### まち歩きや観光案内の充実

来訪者に多様な魅力を発信し、店主や住民等と交流できるまち歩きを実施します。

### 歴史的な建造物の保存・活用

歴史的風致形成建造物への指定など、歴史的な建造物を保存・活用する取組を支援します。

### 観光案内における多言語化の充実

国外からの来訪者に対しても、対象エリアの歴史や文化をわかりやすく発信します。

小田原宿なりわい交流館



### 子どもが楽しめるイベントや活動機会の創出

将来の担い手となる子どもたちと地域との関わりをつくります。参加型や体験型のイベント、活動などを実施・継続します。

### 通りの風情を感じられる装飾の設置

軒先のちょうちんなど、通りの風情を感じられる装飾を設置し、地域の魅力を視覚的に高めます。

### 地域住民と来訪者の交流を通じた地域の魅力発信

地域住民と来訪者との交流を通して、暮らしの魅力を共有するとともに、その魅力を発信し、新たな住民の受け入れを目指します。

# (1)ゾーンごとの将来像

## かまぼこ通り東ゾーン

歩行者が安全に移動できる、暮らしやすい落ち着いた住環境をつくります。  
軒を連ねる蒲鉾店等の店舗内では、歩行者が休める空間を提供します。

### 安全な道路環境 の整備

歩行空間や交差点のカラー化、車両の減速を促す路面標示等を行います。

### 住民同士の多様な交流の場づくり

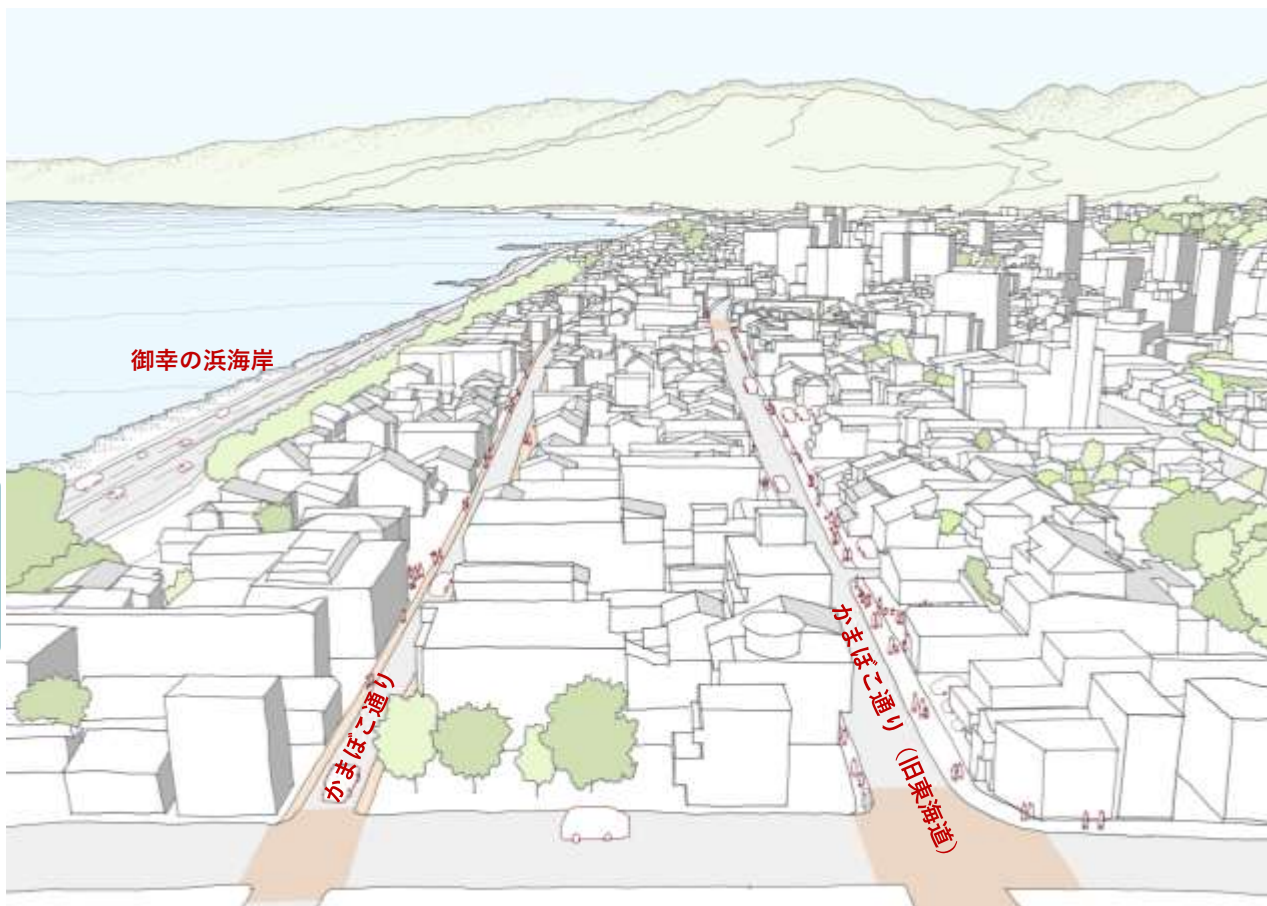
地域における交流の場をつくるとともに、移住者等も気軽に参加でき、地域を知ることのできる場を提供します。

### 移動販売等による 買い物支援

移動販売などの食料品や日用品等の買い物の場をつくります。

### 地域の歴史を知り、 伝える機会の創出

子どもたちや移住者などが地域の歴史を知り、触れる機会をつくります。



### 津波避難ビルの 周知・指定の促進

対象エリア内外で津波避難ビルを周知し、新たに建設される共同住宅等に、指定の働きかけを行います。

### 歩行者が休憩できる 場所の確保

店舗内や広場等のスペースを活用して、回遊する歩行者が休める場所を提供します。

### 利活用可能な空き家の 市場流通の促進

ワンストップ窓口による空き家相談や仲介支援などにより、空き家の利活用を図ります。

### 食育体験の実施

対象エリア内の飲食店等と連携して、食に関する体験や学びの場をつくります。

# (1)ゾーンごとの将来像

## 商店街ゾーン

飲食や物販などの個性ある店舗が商店街を構成し、住民や来訪者などが滞在するゾーンとなっています。安全な歩行者空間が確保され、店先などを活用した店舗等、個性あふれる特徴的な通りが形成されています。

夜のイメージ（宮小路商店街）

昼のイメージ（青物町商店街）

### 寺社や祭礼などの歴史の情報発信

対象エリアを特徴づける寺社の歴史や祭礼行事の情報などを、様々な主体が運営するホームページ等を活用し、発信します。

### 新規出店や既存店舗に対する支援

商工会議所等と連携し、起業支援や事業の継続支援を実施します。

### 食をテーマとしたイベント等の実施

商店街や店舗等と連携して、バル、ストリートマルシェ等を実施します。



### アーケードの適正な維持管理

商店会によるアーケードの撤去や改修など、安全で快適な歩行空間の確保に向けた維持管理を行い、景観にも配慮します。

### 空き店舗の活用

空き店舗の改修費用や新規出店に要する費用を補助し、空き店舗の利活用を促進します。

### 飲食店や土産物店等の店舗の魅力発信

飲食やお土産、体験などの多様な店舗等の魅力や情報を、対象エリアが一体となって発信します。

# (1)ゾーンごとの将来像

## 海岸ゾーン

写真撮影や散歩など、住民や来訪者が思い思いに楽しみながら、海の魅力をゆっくりと味わえる環境を整えます。また季節ごとのイベントなどを通じて、ルールやマナーを守りながら多様な楽しみ方が広がっています。

### ーイベントなどで賑わう様子ー



#### 海面利用の ルール・マナーの周知

海面利用のルールやマナーを周知し、誰もが安心・安全に楽しめる環境づくりを行います。

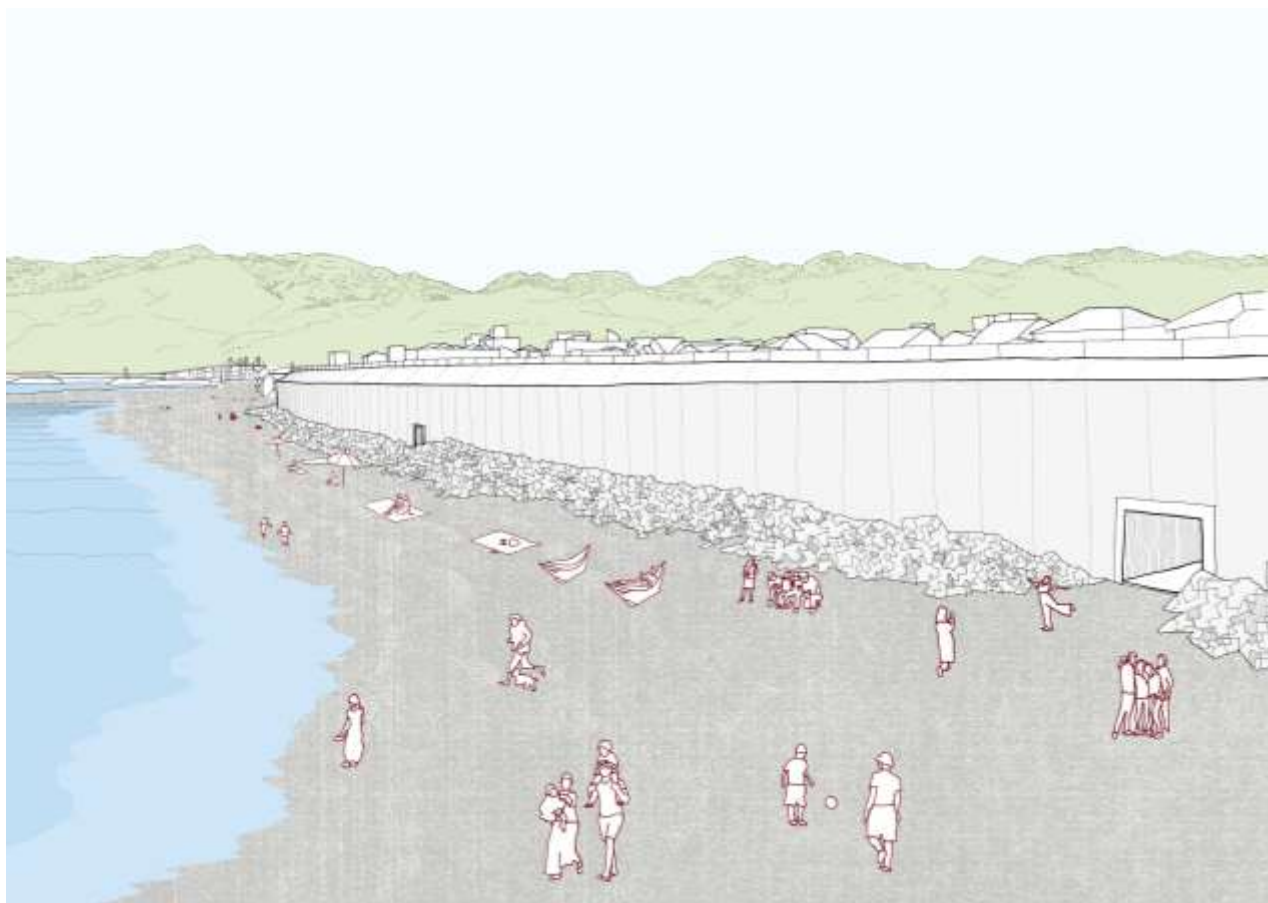
#### 海や海岸での イベントの実施

対象エリアの住環境に配慮しながら、海や海岸を活用し、地域住民も参加できるイベントを実施します。

#### マリナクティビティなど の体験の充実

海や海岸を活用したマリナクティビティなどの体験機会の充実を図ります。

### —思い思いに過ごす日常の様子—



#### 美しい海を守るための 仕組みづくり

美しい海を守るため、住民や子どもたち、事業者、来訪者など、誰でも参加できる清掃活動を行います。海岸付近の公衆トイレを改修し、快適に過ごせる環境を整えます。

#### 心地よい滞在を支援する 備品の貸し出し

海岸でゆっくり過ごせるよう、ハンモックや折りたたみ椅子を近隣の店舗等で貸し出します。

#### 御幸の浜プールについて

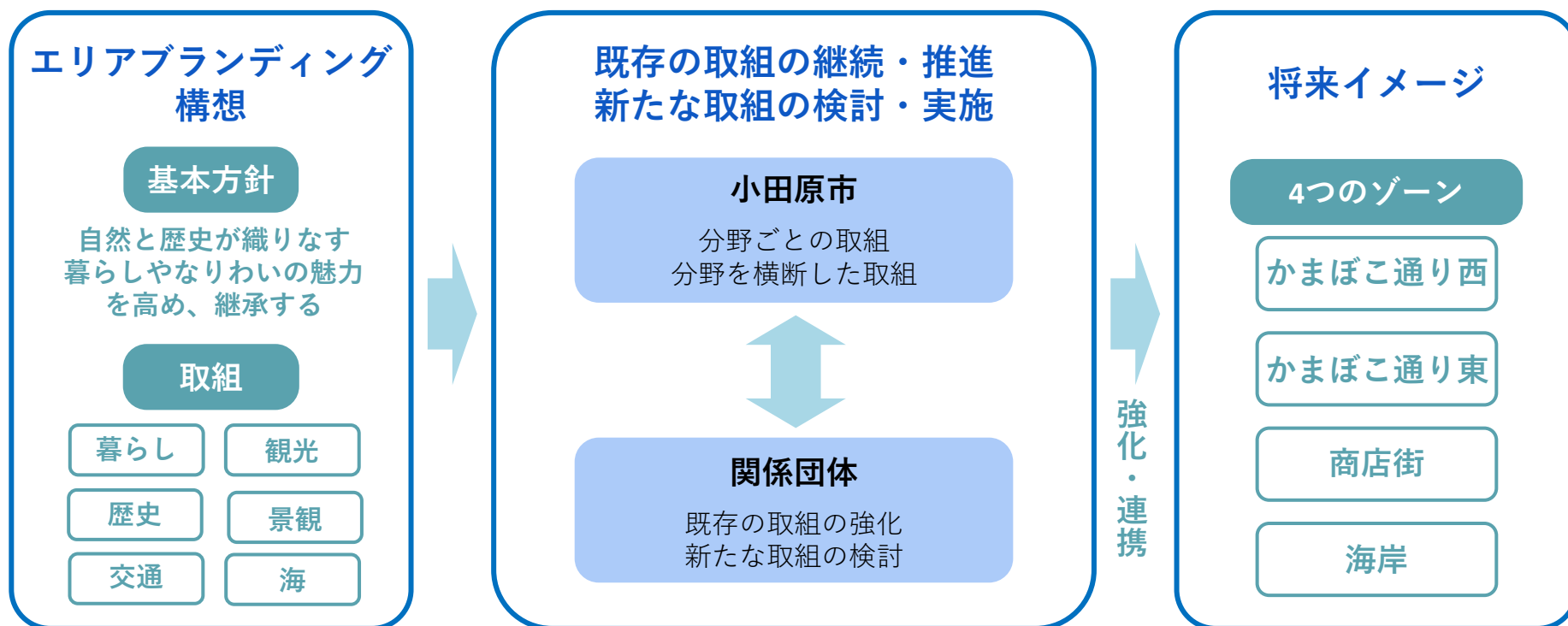
御幸の浜プールについては、スポーツ施設整備基本計画のもとに対応します。

## (2) 実現に向けての考え方

将来像の実現に向けては、構想の基本方針やゾーニングに沿って既存の取組を継続・推進するとともに、新たな取組についても検討・実施します。

既存の取組については持続可能な姿を念頭に、実施主体を中心に関係者と相互に連携を図りながら、状況に応じて内容の強化を図ります。

新たな取組の検討・実施については、実現可能時期や実施主体の調整を行いながら、多様な関係者とともに実現に向けて取り組みます。



# 参考資料

- (1)研究会
- (2)アンケート調査
- (3)ヒアリング
- (4)ワークショップ
- (5)若者との意見交換
- (6)かわら版

# (1)研究会

## 研究会の概要

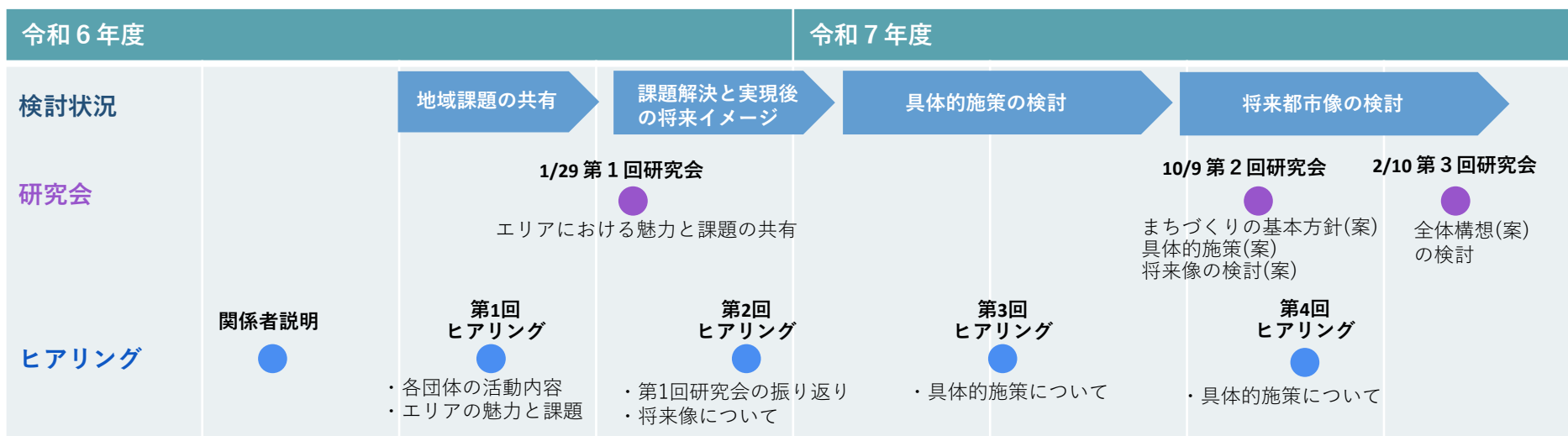
### ■研究会員

関係団体の若手や実務担当者を中心に選出した。

(敬称略)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
小田原市漁業協同組合		鈴木 大助	小田原市観光協会	主事	瀧澤 千恵
小田原市漁業協同組合		大浦 航平	小田原ガイド協会	副会長	橘川 健人
小田原箱根商工会議所	経営支援一課長	飯田 順彦	小田原ガイド協会		川瀬 香智子
青物町商店会		野澤 尚和	小田原サーフィン協会	常任理事	奥津 英之
宮小路商店会		水野 健太	万年地区住民代表	万年地区青年会連合	竹田 將俊
小田原蒲鉾協同組合		鈴木 智博	幸地区住民代表	三の丸小学校PTA	柏木 隆良
小田原蒲鉾協同組合		杉山 勇人	松原神社明神会	会長	里見 謙
小田原かまぼこ通り活性化協議会		小西 里奈			
小田原かまぼこ通り活性化協議会		脇谷 和孝			

### ■研究会の開催経過



# (1)研究会

## 第1回

### ■実施概要

日 時：令和7年1月29日(水) 18時～20時

場 所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：研究会員、事務局、庁内検討会議メンバー、業務受注者 計26人

内 容：事業概要について、各種調査について、エリアにおける魅力と課題について、意見交換

### ■当日の様子



# (1)研究会

## 第2回

### ■実施概要

日 時：令和7年10月9日(木) 18時～20時

場 所：小田原宿なりわい交流館2階

参加者：研究会員、事務局、庁内検討会議メンバー、業務受注者 計19人

内 容：基本方針について、具体的施策について、将来像について

### ■当日の様子



# (1)研究会

## 第3回

### ■実施概要

日 時：令和8年2月10日(火) 18時～20時

場 所：小田原宿なりわい交流館2階

参加者：研究会員、事務局、庁内検討会議メンバー、業務受注者 計18人

内 容：構想案について、意見交換、事業を通じての感想

### ■当日の様子



## (2) アンケート調査

### ① 住民アンケート調査

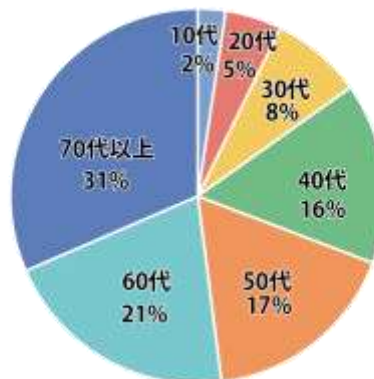
#### アンケート概要

対象エリアにおいて地域住民が日常的に感じる魅力や課題、公共施設等に対する活用ニーズ等を把握するため、対象エリア周辺の地域住民にアンケート調査を実施した。

期間	対象者	方法	回答者数
令和6年 11月8日～ 11月30日	対象エリア内 及び周辺にお住いの 中学生以上の住民	調査票を郵送し、 郵送及びWEBで回答	844人 (郵送：602人 WEB：242人)

#### 回答者について

##### ■回答者の年齢

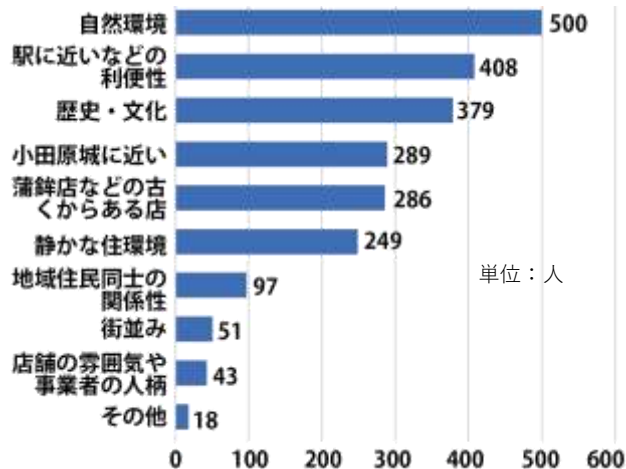


##### ■回答者の居住地

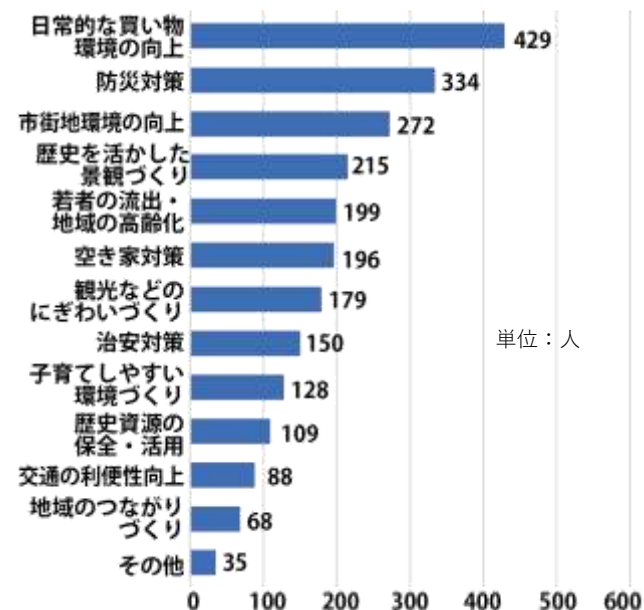


#### 対象エリアについて

##### ■エリアの魅力 (複数回答可)



##### ■エリアの課題 (複数回答可)



## (2) アンケート調査

### ① 住民アンケート調査

■ 御幸の浜海岸の活用方法について（回答者数：509人）

**質問：御幸の浜海岸は海水浴場などが行われていますが、この他の活用方法についてご意見をお願いします。**

（以降、回答の内容から項目を分類しているため、意見の合計数が回答者数と異なる場合があります。）

イベントやマリンスポーツの実施 (178件)	海の体験・魚がテーマのイベント、四季折々のイベント、マリンスポーツの実施、花火大会の復活、地引網イベント、マルシェ、アートイベント（砂浜・漂着物など）、音楽イベント、野外シネマ、星空を楽しむ、伝統行事の復活（大松明）、朝市、スポーツ（ビーチバレー、ボディボード、ヨガ、ビーチフラッグ、トライアスロンなど）、水上アトラクション、フォトスポットの設置、など
公園・憩いの場としての整備 (159件)	景観を楽しむ、海を眺める、ゆっくり・のんびり楽しむ、子どもの遊び場、混雑しないくつろぎの場、散策、魚釣り、お休み処、高齢者が楽しめる、ベンチ・テーブルやテラスの設置、バーベキュー、キャンプ、ライトアップ、松並木、海浜公園、など
施設などの整備 (116件)	カフェ・飲食店、ワーケーション施設、コミュニティ施設、観光客向け施設、道の駅、レジャー施設、遊歩道、ジョギングコース、サイクリングロード、ドッグラン、アスレチック、駐車場、など
現状の環境の維持・改善 (82件)	自然環境保全、砂浜の保全・維持、漁業環境の確保、トイレの改善、現状のままだがよい、何もつくりたくない、ゴミ・騒音などのルールづくり、入口・アプローチの改善、など
観光施設としてのPR・集客 (22件)	撮影スポット、お神輿の海入りなどの伝統行事のPR、遊覧船・観光船で回遊、小田原城等のイベントとの連携、観光客が休息できる場所、宿泊施設、など
海水浴場としての充実 (17件)	海の家の実充、魅力的な出店、移動販売車、安全の確保、災害対策、など

## (2) アンケート調査

### ① 住民アンケート調査

■ 小田原宿なりわい交流館の活用方法について（回答者数：473人）

質問：小田原宿なりわい交流館はお休み処となっておりますが、この他の活用方法についてご意見をお願いします。

飲食や物販等の実施 (172件)	カフェ、スイーツ・甘味処、食事処、駄菓子屋、蒲鉾の食べ比べ、地産地消カフェ、子ども食堂、工芸品・名産品の販売、お土産物・グッズの販売、日用品の販売（農産物、生鮮食品、生活用品など）、スーパーなどの出張販売、市場の開催、チャレンジショップ、テイクアウトコーヒー、イートインスペース、など
地域住民の交流・ 活動場所として活用 (132件)	地域コミュニティの場、子ども（小学生）が集まれる・学習できる場、子どもの遊び場、高齢者の集まれる場所、世代間の交流の場、子どもたちへの伝統文化伝承の場、体験教室（料理・パソコン・スマホ・囲碁・将棋など）、ギャラリー・サークル活動、団体の発表の場、時間貸しスペース、足湯、など
イベント等の充実 (70件)	伝統工芸・地場産業などの体験、小さなイベント、ライブ・ミニコンサート、ミニシアター、ワークショップ、マーケット・バザー・朝市、展示会（作品・地域の歴史など）、など
観光、情報発信の 充実（71件）	小田原の歴史の語り部・展示の場、トイレ、展示・VR等の充実、体験コンテンツのコーディネート、漁業やかまぼこ文化の発信、小田原の食の発信、移住推進事業の拠点、ガイド・ボランティアの拠点、観光案内所、電動キックボード等のモビリティ拠点、かまぼこ通りツアーの企画・開催、など
現状の機能を 維持、向上（62件）	ベンチ等を外に設置、入りやすい雰囲気づくり、現状で良い、何をやっているかわかりづらい、など

## (2) アンケート調査

### ① 住民アンケート調査

■ 御幸の浜プールの活用方法について（回答者数：620人）

質問：御幸の浜プールを閉場する場合の跡地の活用方法についてご意見をお願いします。

運動施設、公園・広場として整備 (249件)	スポーツジム、スケートボード場、バスケットコート、テニスコート、フットサルコート、ランニングステーション、多世代が使える運動施設、室内運動場（卓球・バドミントンなど）、多目的なイベント広場、子供が遊べる公園・広場、海浜公園、地域住民の憩いの場、ドッグラン、犬と遊べる公園、グランピング施設、フリーマーケット、市民農園、キャンプ場、足湯、など
プール機能を継続する (188件)	廃止反対、修繕して継続希望、子どもプール、室内プール、温水プール、流れるプール、海水プール、スライダーありのプール、など
商業機能等を誘致 (112件)	カフェ・飲食店、温浴施設、日用品の販売（農産物・生鮮食品・生活用品）、土産物の販売、水族館、保育所、歴史館、図書館、コミュニティ施設、など
駐車場として整備 (97件)	観光客用駐車場、月極駐車場、立体駐車場、など
海岸と一体利用できる施設の整備 (28件)	海水浴客のためのシャワー・トイレ・ロッカー・更衣室などの設備、サーフィン体験施設、釣り堀、海の家、海を楽しめる・眺められる施設、展望公園、サウナ、浜の生態系が見られる、魚の養殖場、など
災害時の避難場所として整備 (15件)	津波の避難所、タワー・高台、災害時に利用できる広場、など

## (2) アンケート調査

### ① 住民アンケート調査

■ 23区公民館横の空き地の活用方法について（回答者数：479人）

質問：23区公民館横の空き地の活用方法についてご意見をお願いします。

公園・広場、 レジャー機能として 整備（285件）	地域住民の憩いの場、イベント時などの休憩場所、お休み処、公園・広場、遊具・アスレチック、ドッグラン、マルシェ・朝市、花壇、観光農園、緑化・芝生化、遊歩道・散歩道、スポーツ公園、新しいプール、バスケットボールコート、テニスコート、室内運動場、スケートボード場、など
駐車場・駐輪場 として整備（81件）	御幸の浜海岸・かまぼこ通り来訪者用駐車場、プールなど施設利用者用駐車場、地域住民向け駐車場、など
施設の整備 （78件）	飲食店・カフェ、日用品の販売（農産物・生鮮食品・生活用品）、市場、チャレンジショップ、商業施設、移動販売店の拠点、バーベキュー、水族館、美術館、図書館の支所、映画館、、保育園・学童、宿泊施設、ワーキングスペース、トイレ、など
海岸と関連する 施設の整備（24件）	海水浴客のためのシャワー・トイレ・更衣室など、釣りなどの道具販売、釣り堀、海の幸をテーマとした施設、ビーチパーク、海とつながる場、海浜植物の生育、観光客などの避難場所や津波避難タワー、強固な堤防、津波対策広場、など
現状を維持 （11件）	自治会内のイベント等スペース、空地、など

## (2) アンケート調査

### ② 周辺観光地来訪者実態調査

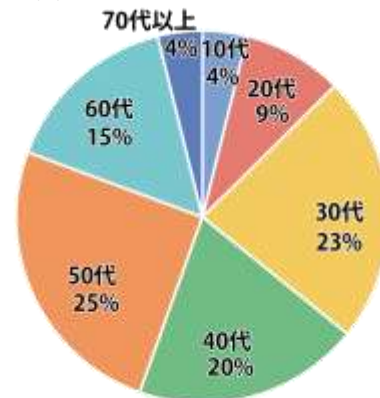
#### 調査の概要

小田原城や早川エリアなど、対象エリア外の周辺観光地来訪者に対し、対象エリアの認知度やニーズを把握するため、周辺観光地8か所において、次のとおりアンケート調査を実施した。

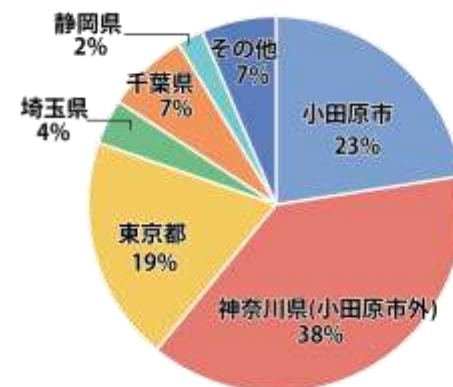
期間	実施場所	方法	回答者数
令和7年5月12日(月)~27日(火) (回答人数300人 到達のため終了)	小田原駅観光案内所、小田原市観光交流センター、早川駅臨時観光案内所、小田原城天守閣、漁港の駅TOTO小田原、鈴廣かまぼこ博物館、松永記念館（郷土文化館分館）、ミナカ小田原 計8か所	配架チラシによる広報	310人

#### 回答者について

##### ■回答者の年齢



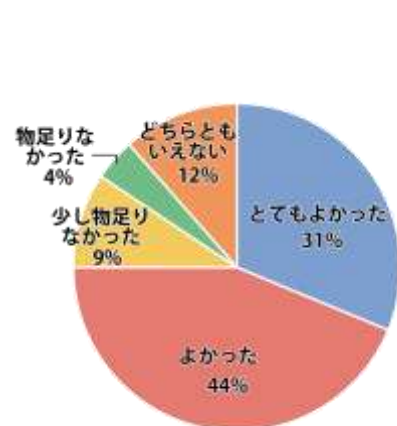
##### ■回答者の居住地



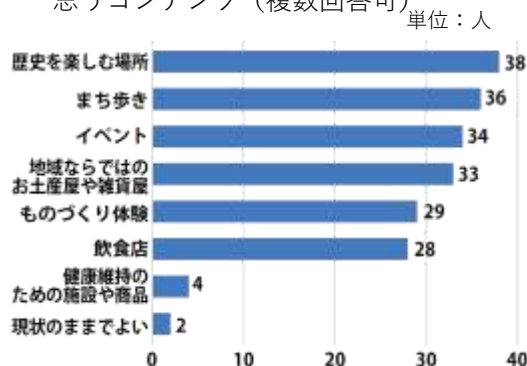
#### かまぼこ通り周辺について（居住地が小田原市外の回答のみ抽出）

##### かまぼこ通り周辺を訪れたことがある方（n=96）

##### ■かまぼこ通りの満足度



##### ■より魅力的になるために必要だと思うコンテンツ（複数回答可）

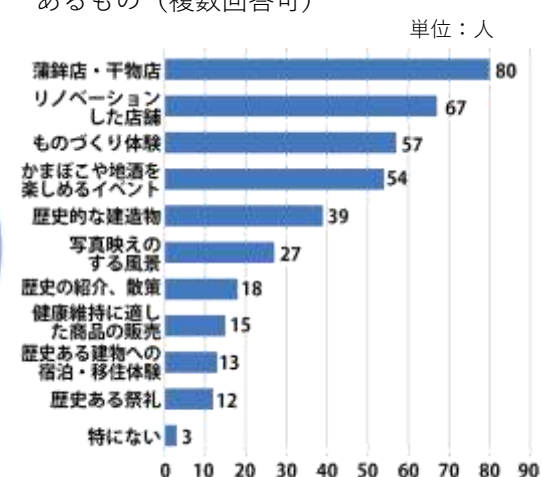


##### かまぼこ通り周辺を訪れたことがない方（n=144）

##### ■訪れたことがない理由



##### ■かまぼこ通り周辺の取組のうち興味のあるもの（複数回答可）



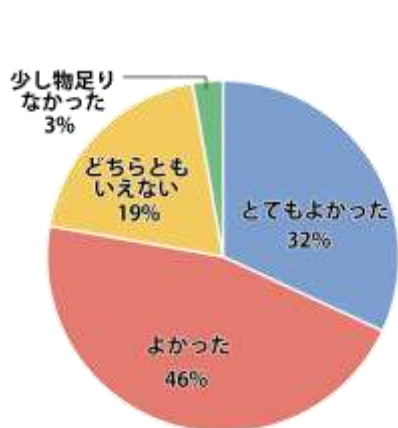
## (2) アンケート調査

### ② 周辺観光地来訪者実態調査

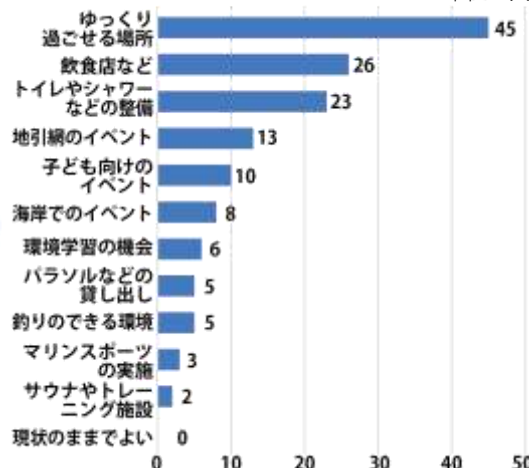
御幸の浜海岸について（居住地が小田原市外の回答のみ抽出）

御幸の浜海岸を訪れたことがある方（n=72）

■ 御幸の浜海岸の満足度

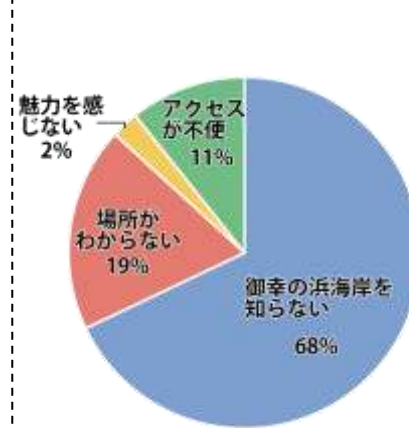


■ より魅力的になるために必要だと思うコンテンツ（複数回答可）

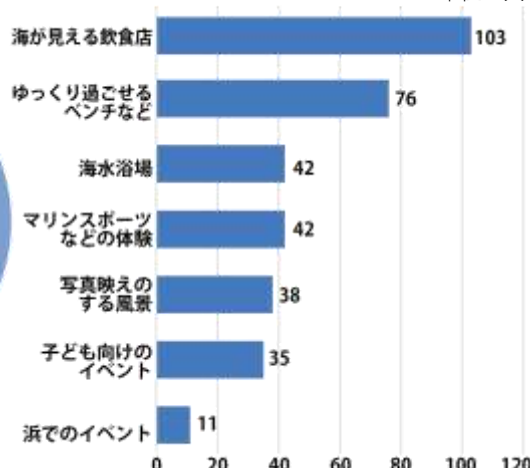


御幸の浜海岸を訪れたことがない方（n=168）

■ 訪れたことがない理由

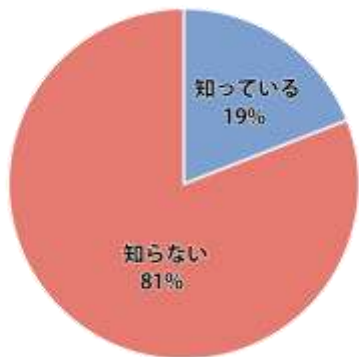


■ 御幸の浜海岸で体験してみたいこと（複数回答可）

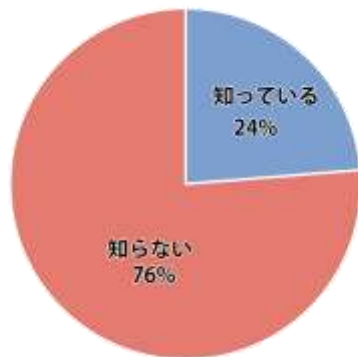


対象エリア内コンテンツの認知度について（居住地が小田原市外の回答のみ抽出）（n=240）

■ 宮小路商店街の認知度



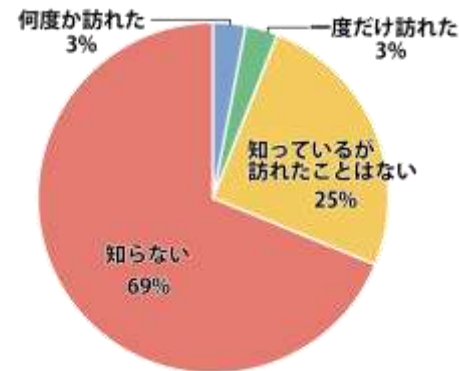
■ 青物町商店街の認知度



■ なりわい交流館の認知度



■ 松原神社例大祭の認知度



## (2) アンケート調査

### ③ 御幸の浜海岸来訪者実態調査

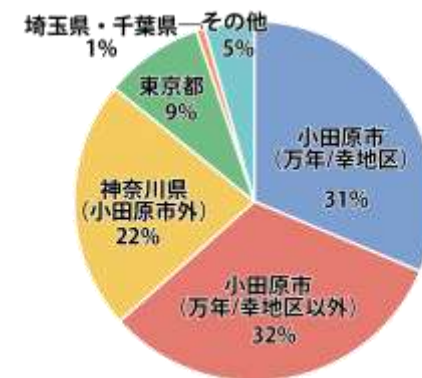
#### 調査の概要

御幸の浜海岸は夏季の海水浴場のほか、各種イベントの開催や日常的な利用がされている。御幸の浜海岸に対する来訪者のニーズを把握するため、御幸の浜海岸で行われるイベントにおいて、アンケート調査を実施した。

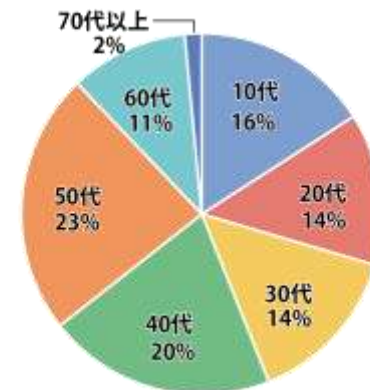
日時	イベント名称	方法	回答者数
令和6年7月28日（日） 10時～15時	ODAWARA BEACH PARK PROJECT	書面記入	148人

#### 回答者について

##### ■ 回答者の居住地



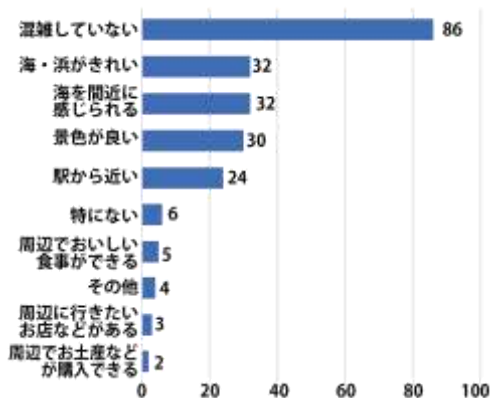
##### ■ 回答者の年齢



#### 御幸の浜海岸について

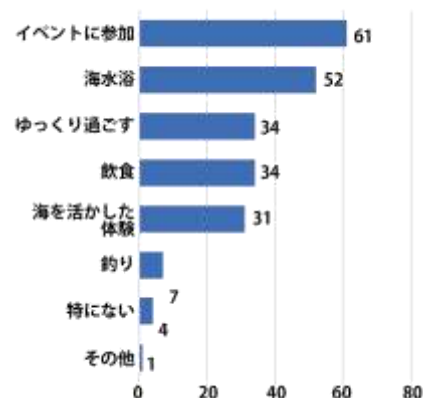
##### ■ 御幸の浜海岸の好きなところ (複数回答可)

単位：人



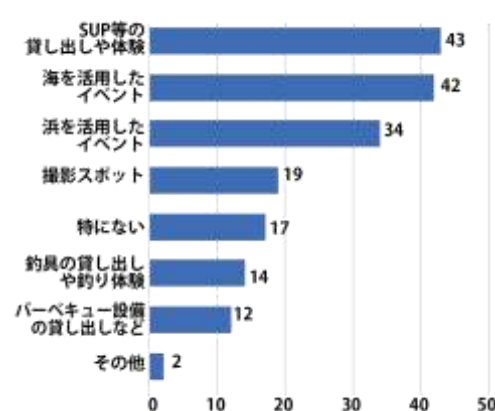
##### ■ 御幸の浜海岸で望む過ごし方 (複数回答可)

単位：人



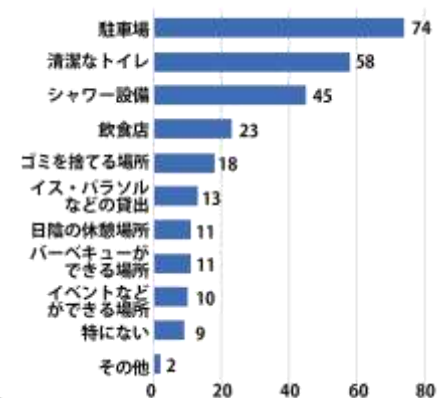
##### ■ 足りないソフト機能 (複数回答可)

単位：人



##### ■ 足りないハード機能 (複数回答可)

単位：人



## (2) アンケート調査

### ④ かまぼこ通り来訪者実態調査

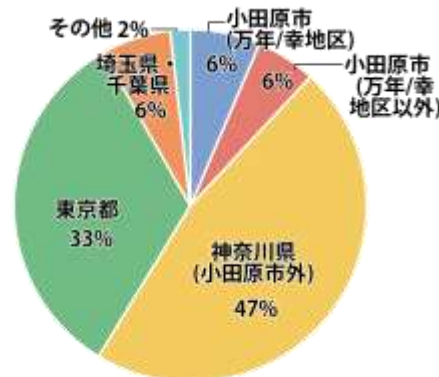
#### ■ 調査の概要

かまぼこ通りについては、蒲鉾店や歴史的な街並みなどの観光資源が点在する。かまぼこ通りに対する来訪者のニーズを把握するため、かまぼこ通りで行われるイベントにおいて、アンケート調査を実施した。

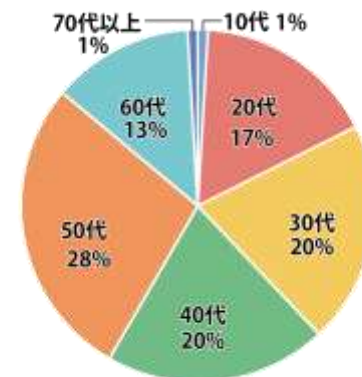
日時	イベント名称	方法	回答者数
令和6年8月11日（日） 13時～15時	小田原宿場祭り	スタッフによる聞き取り及び書面記入	110人

#### 回答者について

##### ■ 回答者の居住地



##### ■ 回答者の年齢

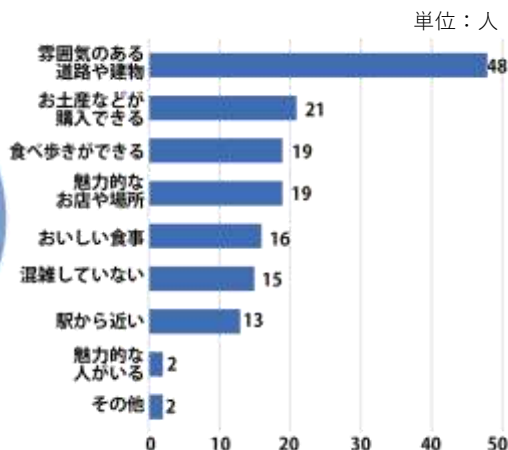


#### かまぼこ通りについて

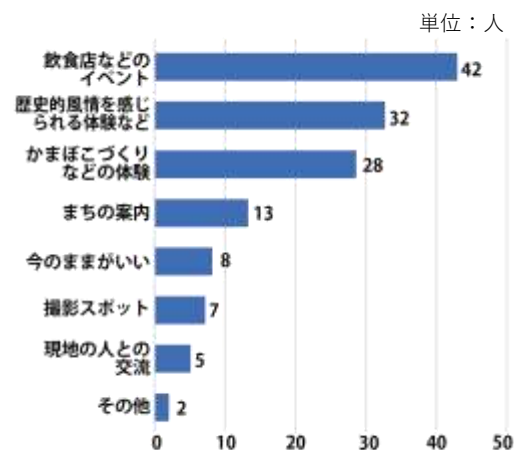
##### ■ 訪れた回数



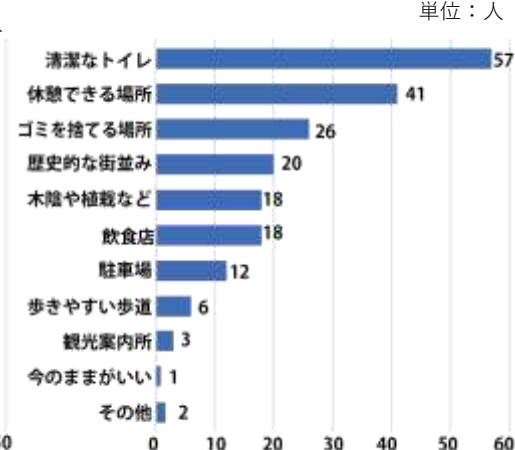
##### ■ 好きなところ（複数回答可）



##### ■ 足りないソフト機能（複数回答可）



##### ■ 足りないハード機能（複数回答可）



### (3) ヒアリング

#### ヒアリングの概要

##### ■実施概要

実施日：令和6年7月19日～令和8年3月5日

対象：研究会員、地域住民、自治会、関係団体、学校関係者 延べ172人

回数：計71回

##### ■ヒアリングの開催経過

令和6年度		令和7年度					
検討状況		地域課題の共有	課題解決と実現後の将来イメージ	具体的施策の検討	将来都市像の検討		
研究会		1/29 第1回研究会 エリアにおける魅力と課題の共有			10/9 第2回研究会 まちづくりの基本方針(案) 具体的施策(案) 将来像の検討(案)	2/10 第3回研究会 全体構想(案) の検討	
ヒアリング	7/19-9/10 関係者説明	11/13-11/25 第1回ヒアリング	3/10-3/27 第2回ヒアリング	6/25-7/16 第3回ヒアリング	11/11-12/10 第4回ヒアリング		
【研究会員】		・各団体の活動内容 ・エリアの魅力と課題	・第1回研究会の振り返り ・将来像について	・具体的施策について	・具体的施策について		
【自治会、地域活動団体等】	9/26-10/29 関係者説明	11/22・12/3 ヒアリング (地域住民)	1/9-1/15 ヒアリング (自治会)	3/18 ヒアリング (関係団体)	7/16-8/7 ヒアリング (関係団体・自治会)	12/23-1/29 ヒアリング (学校関係者)	2/24・3/5 ヒアリング (自治会)
		・エリアの魅力と課題	・地域課題の聞き取り ・アンケート調査結果の共有	・検討状況の報告	・検討状況の報告	・具体的施策について	・構想案について

# (3)ヒアリング

## 第1回

### ■実施概要

実施日：令和6年11月13日～11月25日

対象：研究会員、地域住民

内容：地域の魅力、課題の聞き取り

### ■各研究会員の意見\*

	暮らし	観光	歴史・なりわい*	景観	交通	海
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>かまぼこ通りの住宅への配慮が必要</li> <li>地域住民への配慮</li> <li>近くに飲み物や軽食を買える場所がない</li> <li>観光客のゴミなどのマナー問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かまぼこ通りの店舗同士の連携が困難</li> <li>蒲鉾店それぞれの特徴がわかりづらい</li> <li>このエリアならではの商品が少ない</li> <li>お土産屋や体験コンテンツ、休憩場所の不足</li> <li>四季それぞれの楽しみ方がない</li> <li>かまぼこ通りのPR不足、観光客のイメージと現状のギャップ</li> <li>新規の特徴的な店舗の活用不足</li> <li>お休み処、日陰がない、清潔なトイレが不足</li> <li>観光客等への案内（サインなど）の不足</li> <li>観光客を対象としていない店舗も多い。（日曜日休みなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松原神社祭礼などの伝統行事のPR不足</li> <li>蒲鉾店の減少、後継者、新規参入不足</li> <li>蒲鉾等の販売量の減少</li> <li>新たなニーズの開拓が必要</li> <li>地元住民に商品を楽しんでもらいたい</li> <li>漁場として漁獲量を継続的に確保する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街のアーケードの老朽化</li> <li>商店街の空き家・空き店舗利活用不足</li> <li>マンション建設による景観の非統一感</li> <li>古い店舗がマンションに建て替わっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田原駅、小田原城～かまぼこ通りへのアクセスが不便</li> <li>駐車場や駐輪場が不足</li> <li>二次交通の不足</li> <li>車のスピードが速くて危険</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海の活用、PR不足</li> <li>海を見て気軽に食事できるような場所がない。</li> <li>海が活かされていない。</li> <li>SUP利用と漁場の棲み分けができていない</li> <li>マリンスポーツのルールづくりやマナー啓発が必要</li> <li>御幸の浜の利活用に関するルールがない</li> <li>通年でシャワー等の設備があると良い。</li> <li>ライフセーバー不在時の災害発生時等の対応ができない</li> </ul>

\*第1回ヒアリング時は「なりわい」を含む6分野で意見を整理した。

# (3) ヒアリング

## 第2回

### ■実施概要

実施日：令和7年3月10日～3月27日

対象：研究会員、地域住民

内容：第1回研究会の振り返り、課題の再確認、将来像について

### ■分野別の意見

	暮らし	観光	歴史	景観	交通	海
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・地元住民が地域の魅力に気づいていない</li><li>・子どもの遊び場不足</li><li>・昔からの住民と移住者の交流する場不足</li><li>・学校給食等での地元産食品の活用</li><li>・空き家が多いが、空き家に関する情報が少ない</li><li>・人口の高齢化</li><li>・移住者が馴染みやすい環境づくり</li><li>・日常の買い物が困難</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・PR不足</li><li>・飲食店の店舗数不足</li><li>・観光を盛り上げるにあたっては、住民に対する配慮が必要</li><li>・日曜日が店休日の店舗が多い</li><li>・トイレが少ない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちに地域の歴史を伝える機会不足</li><li>・伝統ある祭りの担い手不足</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・青物町商店街のシャッター通りがもったいない</li><li>・昔からの住宅や店舗と新しい住宅やマンションが混在している</li><li>・観光客によるごみ問題がある</li><li>・商店街のアーケードの老朽化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の通学路の交通量が多い</li><li>・駐車場が離れている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「海へと続くトンネル」の人気があるがPRの仕方がわからない</li><li>・来訪者の駐車場不足</li><li>・場所がわかりにくい</li><li>・SUP等の利用者の一部のマナーが悪い</li><li>・海岸利用のルールやマナーの周知不足</li></ul>
将来像について	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもが安心して遊べる場所のマップ作り</li><li>・イベントが継続的かつ定期的に実施できる仕組みを整える</li><li>・蒲鉾やちくわなどの地元産食品をもっと気軽に食べられる仕組み</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・スタンプラリーのようなゲーム性のある仕掛けが必要</li><li>・新規店舗が出店しやすい仕組みづくり</li><li>・回遊性と滞在を促す工夫が必要</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちに地域の歴史に興味を持ってもらえる仕組みづくり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・のれんなどを使って統一感のある街並みをつくる</li><li>・既存の環境を活かし整備が必要</li><li>・街灯を明るくするなどの安全性の向上が必要</li><li>・アクセス性だけでなく道中も楽しめる街並みにする</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・徒歩での移動も楽しめる仕掛けづくり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・にぎやかさは求めずに静かに過ごせる場所にしたい</li></ul>

# (3) ヒアリング

## 第3回

### ■実施概要

実施日：令和7年6月25日～7月16日

対象：研究会員

内容：魅力や課題の再確認、具体的施策について、公共空間について

### ■分野別の意見

	暮らし	観光	歴史	景観	交通	海
具体的施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏祭りなどが開催できる場所があると良い</li> <li>ランニングステーションの設置</li> <li>子どもの遊び場整備</li> <li>名産品である魚肉たんぱく質やジビエを活用した体づくりを行えるまちづくり</li> <li>新旧の住民の交流の場づくり</li> <li>日用品や生鮮食品の買える環境を整える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼の店舗と夜の店舗の連携により長い滞在を促す</li> <li>かまぼこ通り東側にランドマークを設置</li> <li>新規店舗が出店しやすい仕組みづくり</li> <li>観光の施設ではなく、自然が豊かであるような場所にする</li> <li>トイレや休憩場所の整備</li> <li>地域の子どものガイドするまち歩きの実施</li> <li>小田原宿なりわい交流館の積極的な活用</li> <li>観光客の災害対策</li> <li>なりわいなどを体験できる施設の整備</li> <li>姉妹都市との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと一緒に地域資源マップ作成</li> <li>歴史を守るだけでなく祭礼や伝統行事にも楽しく参加できるような仕組みづくり</li> <li>道のカラー舗装などで旧東海道の範囲を示す</li> <li>お神輿の展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通のマークを付けるだけでも統一感はある</li> <li>様式美が必要</li> <li>かまぼこ通りが始まる目印を設置</li> <li>電柱の地中化</li> <li>ゴミ箱を設置する</li> <li>商店街のアーケードの整備または取り壊し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無人タクシーの整備</li> <li>人力車の実施</li> <li>ランプやカラー舗装による速度を落とす仕組みづくり</li> <li>路面電車の復活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂浜を広げて昔の姿を取り戻す</li> <li>西湘バイパスで壁面アートを実施</li> <li>海面利用のルール周知</li> <li>トイレの整備</li> <li>日よけやベンチの設置</li> <li>御幸の浜海岸から早川漁港へつなげる歩行動線の整備</li> </ul>

### ■公共空間について

	23区公民館横の緑地	御幸の浜プール	御幸の浜海岸
活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るくして防犯カメラを設置する</li> <li>ベンチの設置など無料休憩所</li> <li>公園にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のプールをうまく使う。</li> <li>置き式のプールを設置する</li> <li>プールはなくさないでほしい</li> <li>スケボーパークとしての活用</li> <li>冬は釣り堀にして年中お金を生み出せるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>釣りのための設備を整える（手すりなど）</li> <li>小田原宿なりわい交流館との連携</li> <li>現状を活かし大きなことはやらない</li> </ul>

# (3)ヒアリング

## 第4回

### ■実施概要

実施日：令和7年11月11日～12月10日

対象：研究会員、関係団体

内容：具体的施策について

### ■分野別の意見

	暮らし	観光	歴史	景観	交通	海
具体的施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・移動販売などで食料品、日用品の買い物支援する</li><li>・子どもの学びの場や子どもが楽しめるイベント、活動機会をつくる</li><li>・災害に備えるため、新たな津波避難ビルを増やす</li><li>・空き家を活用する取組を推進する</li><li>・住民同士や地域住民と観光客の交流を通じて地域の魅力を発信する</li><li>・地域特産品を活かした食育体験を行う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・店舗の経営や起業に対する支援、サポートする</li><li>・なりわい体験のコンテンツを増やす</li><li>・まち歩きや観光案内を充実させ、地域の魅力を発信する</li><li>・既にある飲食店やお土産などの情報を発信する</li><li>・ゲーム性の高いサービスで地域内外の回遊性を高める</li><li>・外国人観光客への観光案内を充実させる</li><li>・宿泊施設に関する情報を発信する</li><li>・食やなりわいをテーマとしたイベントを開催する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の神社やお寺、祭礼、伝統行事などの情報を発信する</li><li>・地域住民が自ら地域の歴史を知り、伝える機会をつくる</li><li>・歴史的な建物を保存しながら、積極的に活用する</li><li>・小田原宿なりわい交流館を、地域住民などが積極的に活用できるように推進する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・対象エリアの街並みにふさわしい景観にするため、建物の改修等を支援する</li><li>・空き店舗の利活用を進める</li><li>・通りの風情を感じられるよう、ちょうちんなどの装飾を設置する</li><li>・商店街のアーケードを適正に維持管理し、より安全な商店街を目指す</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・レンタサイクルや電動キックボード、回遊バスの利用を促進し、対象エリア内外の回遊性を高める</li><li>・歩行者がより安全に通行できるよう、道路環境を整える</li><li>・歩行者が途中で休憩できる場所を確保する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な方が参加できる清掃活動を行い、現在のきれいな砂浜を維持する</li><li>・海に関するルールやマナーを理解し、全ての関係者にとって安全な海を目指す</li><li>・イベントやマリンスポーツの体験を通じて、海に親しみを持ってもらう</li><li>・海岸でゆったりと過ごせるよう、イスなどの貸し出しを行う</li></ul>

## (4)ワークショップ

### 事前説明会

#### ■実施概要

日 時：令和7年4月19日（土）10時～正午

場 所：小田原蒲鉾会館

目 的：地域住民へ事業の説明を行うとともに、ワークショップの参加者を募る

参加者：対象エリア等にお住まいの方32人

#### ■当日の様子



## (4)ワークショップ

### 第1回

#### ■実施概要

日 時：令和7年6月14日（土）10時～正午

場 所：小田原市観光交流センター

目 的：エリアの魅力・課題を共有し具体的な取組を考える

参加者：対象エリア等にお住まいの方15人

#### ■当日の様子



## (4)ワークショップ

### 第1回

#### ■参加者の意見

分野	具体的な取組の案
暮らし	<ul style="list-style-type: none"><li>子どもが遊びたくなる遊び場づくり(遊具など)</li><li>遊具をつくるワークショップの実施</li><li>住んでほしい「人」の指針づくり</li><li>公園を併設したマンション</li><li>子育てマンションで移住者を増やす</li><li>東京へ情報発信して移住者を呼ぶ</li><li>小さめのスーパーを誘致する</li></ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"><li>早川漁港との連携(市場、TOTOCO)</li><li>テイクアウトで食べられる場所をつくる</li><li>暮らしと共存する観光のあり方を実現</li><li>お店ごとのオリジナリティを活かす</li><li>海に向かう通りのマネタイズ</li><li>子ども向けや日持ちするお土産の開発(山田呉服店のオリジナルてぬぐいなど)</li><li>蒲鉾に限らず練り物としてPR</li><li>災害時に外国人も対応できるような防災訓練を実施</li><li>小田原おでんのPR</li><li>通り道で終わらせない工夫</li><li>とどまれる場所をつくる</li><li>小さな蒲鉾店起業支援</li><li>短時間でできる体験の実施</li><li>多言語化</li><li>飲食店を増やす</li><li>ゴミ箱の設置</li><li>観光の予算を確保</li></ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"><li>東海道の歴史をもっとアピールする</li><li>小田原駅からかまぼこ通りまでで歴史を感じる工夫をする</li><li>小田原宿なりわい交流館を、入りやすく、明るくする</li><li>松原神社のPR</li><li>海と神社のつながりをアピール</li><li>神輿や山車を展示する</li></ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"><li>宮小路の景観を統一する(和風にするなど)</li><li>歩道の整備、電柱の埋設</li><li>通りを提灯で飾る</li></ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"><li>エリア内の車両の交通量を減らす</li><li>車がスピードを出せないような工夫をする</li><li>学校のまわりは自動車は20km/hに制限する</li><li>トランジット交通を導入する</li><li>コミュニティバス、路面電車などの導入</li><li>市のハイキングコースを活用してかまぼこ通りまでをつなげる</li></ul>
海	<ul style="list-style-type: none"><li>海の活用</li><li>海の近くにオシャレなカフェ(観光客や地元住民がくつろげる、きんじろうカフェのような)</li><li>プールを整備して周知する</li><li>プールから公民館の空地进行をレストランにする</li><li>宮崎青島的な場所(海辺でゆっくり休める、環境を楽しめる場所)</li><li>海沿いの土手の上の道をつなげる</li><li>プールの観客席を上手く使って魅力を出す</li><li>以前のような広い浜に戻す</li></ul>

## (4)ワークショップ

### 第2回

#### ■実施概要

日 時：令和7年9月6日（土）10時～正午

場 所：小田原市観光交流センター

目 的：ゾーンごとの取組やキーワードを考える

参加者：対象エリア等にお住まいの方15人

#### ■当日の様子



# (4)ワークショップ

## 第2回

### ■各班のまとめ





# (4)ワークショップ

## 第2回

### ■各班のまとめ



# (4)ワークショップ

## 第2回

### ■各班のまとめ



## (4)ワークショップ

### 第3回

#### ■実施概要

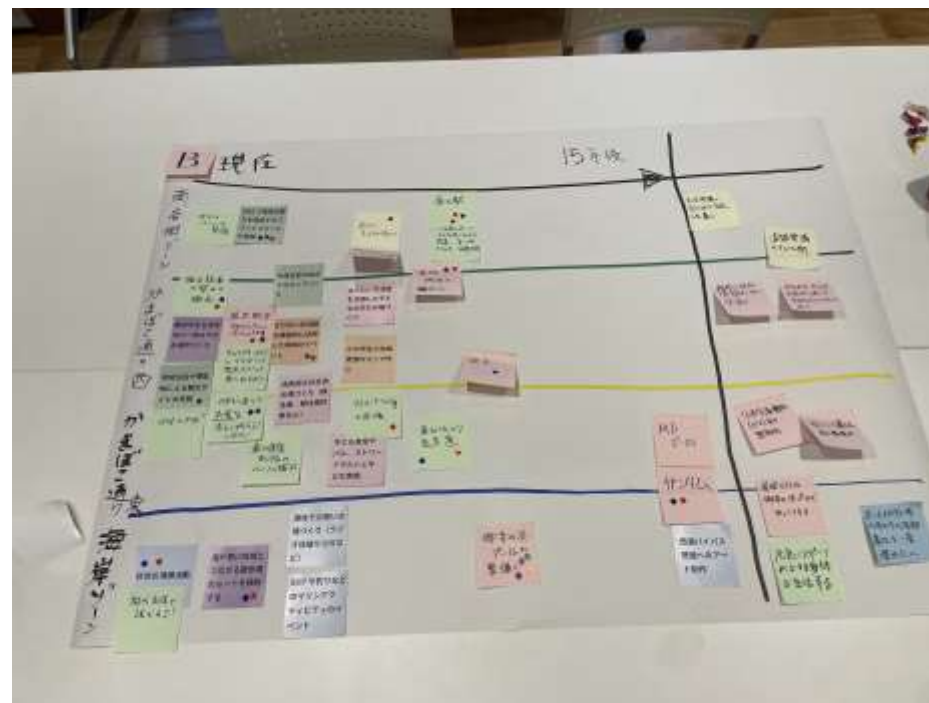
日 時：令和7年12月6日（土）10時～正午

場 所：小田原市観光交流センター

目 的：ゾーンごとの具体的な取組を時間軸で整理する

参加者：対象エリア等にお住まいの方13人

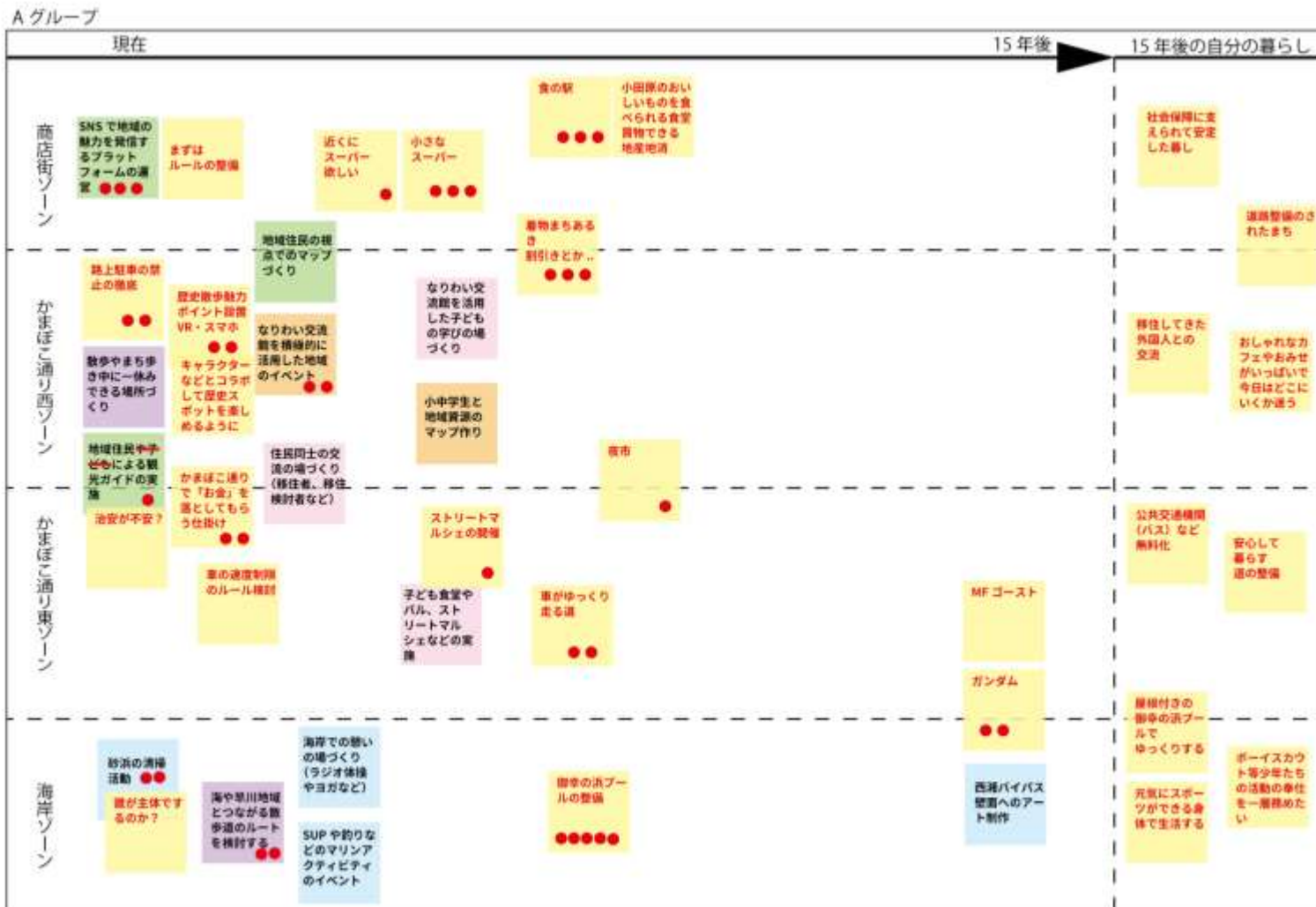
#### ■当日の様子



# (4)ワークショップ

## 第3回

### ■各班のまとめ



# (4)ワークショップ

## 第3回

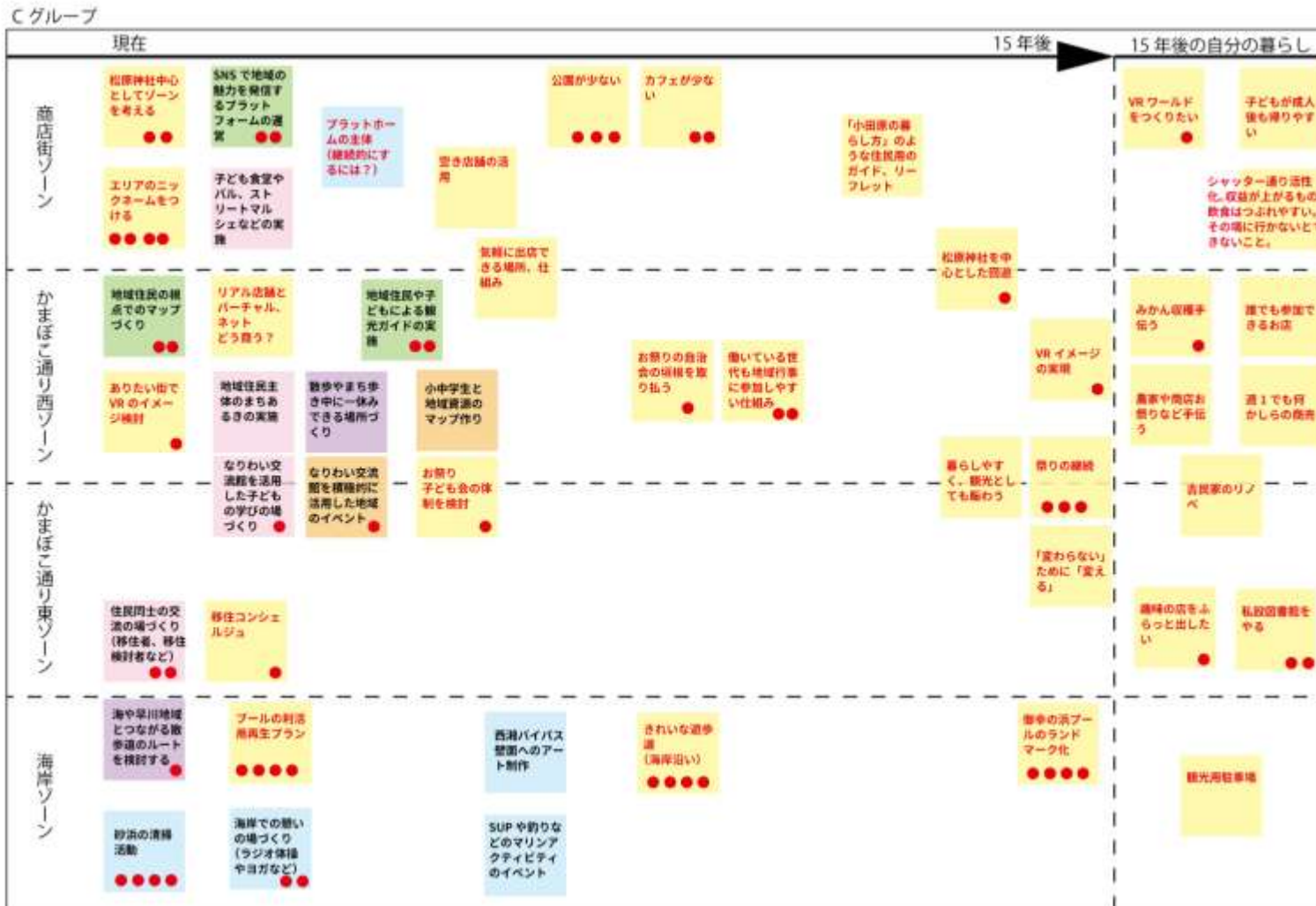
### ■各班のまとめ

Bグループ		現在						15年後	15年後の自分の暮らし	
エリア全体	住民同士の交流の場づくり (移住者、移住検討者など)	地域住民主体のまちあるきの実施	地域住民の視点でのマップづくり	地域住民の地元(7)を育てる	SNSで地域の魅力を発信するプラットフォームの運営	散歩やまち歩き中に一体みできる場所づくり			住民が元気なまち	個人店が元気なまち
		OMO ホテル(星野リゾート)のようなマニアックなまち歩き	小中学生と地域資源のマップ作り	地元人ならではの視点を入れた観光客向けの地図づくり	地域住民や子どもによる観光ガイドの実施	目的地に向かう途中に滞れる場所 ①地元の人 ②観光客	観光中に休める場所 ③観光客			
商店街ゾーン	子ども食堂やバル、ストリートマルシェなどの実施									
かまぼこ通り西ゾーン	なりわい交流館を積極的に活用した地域のイベント									
	なりわい交流館を活用した子どもの学びの場づくり	テイクアウトしたものを持ち込んで食べられる					宮之原道を昔ながらの町並みに整備		住んでいるかわからない…	小田原市にいてかわからないけど、帰ってきたい場所
かまぼこ通り東ゾーン										
							旧鈴木邸の活用			子どもが遊びやすい小田原市にしたい
海岸ゾーン	SUPや釣りなどのマリナックイベント	海岸での憩いの場づくり(ラジオ体操やヨガなど)	西瀬バイパス整備へのアート制作	海や早川地域とつながる散歩道のルートを検討する	検討中 →道の整備 →HPに掲載 →その他					
	砂浜の清掃活動	砂浜で遊べる場所づくり					市民プールの活用  活用アイデアWSが開催されるなら、自分のSNSで友達に知らせる(宣伝)			きれいな海を見ていたい

# (4)ワークショップ

## 第3回

### ■各班のまとめ



## (5)若者との意見交換

### 神奈川大学ジモト創生プロジェクト

#### ■経緯

小田原市と神奈川大学との包括連携協定に基づき、小田原の地域活性化や地方創生に資する取組として実施した。

#### ■経過

令和7年5月24日(土)の午前、同大学の学生に対し、市職員から小田原市やエリアの概況をレクチャーし、午後にはケントスコーヒー代表の平井氏の案内のもと、学生とともにフィールドワークを実施した。旅籠屋さとうの経営者、上山氏からは起業に関する貴重なご意見を伺った。

その後、学生によるジモト創生プランが検討され、8月6日(水)に小田原宿なりわい交流館2階にて、学生による4つのプランが発表され、協力者による講評が行われた。

#### ■各班のアイデア

##### ①Odawander

###### 「時と心に刻む小田原の旅」

コンパクトデジタルカメラのレンタルを行い、写真を市運営のSNSやアプリに掲載する。なりわい交流館で部門ごとの写真コンテストを開催する。



##### ③ハコニワミュキノハマ

正方形のパンフレットの作成や地域の世界観に合わせた固有のBGMを各店舗で流すことによる「ハコの形成」とSNSなどを利用した「周知活動」、マルシェ、蒲鉾板などを活用した「体験の場」を実施する。



##### ②かまぼこごった市 ～ジャンル問わずのストリート型マルシェ～

かまぼこ通りで骨董、自前の作品、食べ物などのストリート型マルシェを開く。御幸の浜プールを開放し、テイクアウトしたものを食べられる椅子とテーブルを設置する。



##### ④地域住民と観光客の間であいさつが起きるまち

蒲鉾の外装、内装を施した「かまぼこタクシー」、キャラクターが蒲鉾に変身していく「スタンプラリー」、回遊を促す「御幸の浜遊歩道延長計画」など、地域を歩くことで地域住民と観光客の間で挨拶が起きるまちをつくる。



# (6)かわら版

## 概要

### ■実施概要

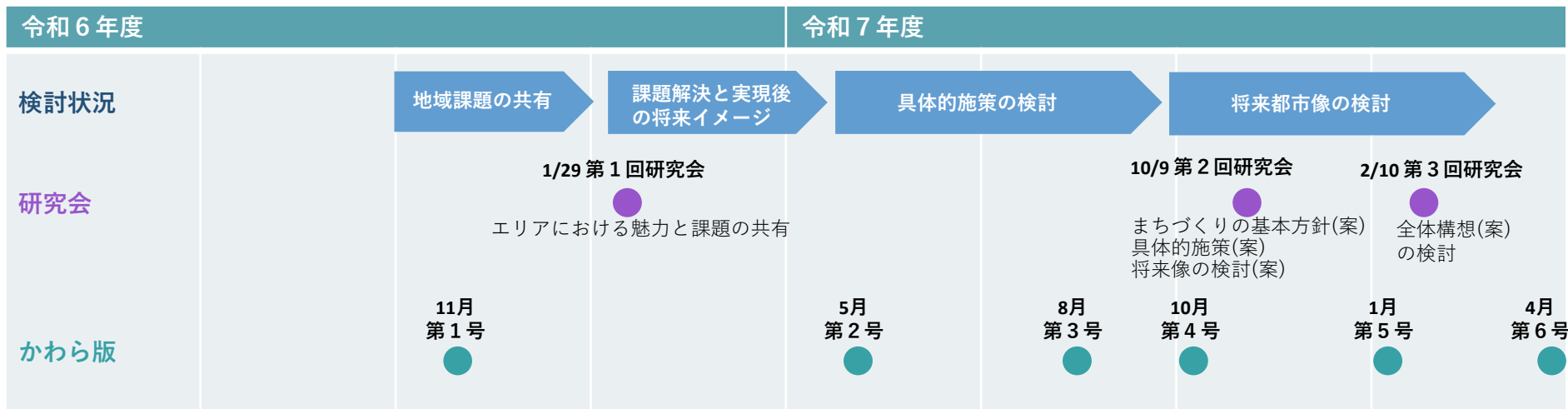
- 対 象：構想対象エリア
- 方 法：自治会回覧にて配布
- 回 数：計6回

### ■内容

構想の検討状況等を地域住民と共有することを目的とし、第2号以降は研究会員のコメントを掲載した。

- ・第1号：構想の概要とスケジュールについて
- ・第2号：第1回研究会について、住民アンケート結果について
- ・第3号：第1回ワークショップについて、ヒアリングについて
- ・第4号：第2回ワークショップについて、周辺観光地来訪者実態調査について
- ・第5号：第3回ワークショップについて、第2回研究会について
- ・第6号：第3回研究会について、構想策定について

### ■実施スケジュールと内容



# (6)かわら版

■第1号（令和6年11月発行）、第2号（令和7年5月発行）

発行 小田原市政策調査課 令和6年11月

## 海・歴史・暮らしのNEWS

— エリアブランディング構想の記録 — Vol.1

小田原市では、御幸の浜・かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの将来像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### エリアブランディング構想とは？

エリアブランディング構想は多様なまちの資源を生かして暮らしや観光などの魅力を高めていくものです。そこで、本事業では地域の皆様をはじめ、多くの関係者と相談しながら検討していき、「研究会」を中心に構想を取りまとめていきます。

●松原神社  
宮小路エリア  
●小田原宿  
なりわい交流館  
●千度小路 龍宮神社  
御幸の浜プール  
御幸の浜海岸  
国道1号  
かまぼこ通り

### 研究会について

研究会は地域住民、商業関係者などの多様な関係者で構成する組織です。構想の策定主体として、アンケート結果などをもとに意見交換を重ねながら、事業対象エリアの構想（将来像）を作っていきます。

### 構想策定スケジュールについて

	令和6年度	令和7年度
エリアブランディング構想	現状や課題、ニーズの把握 アンケート、住民懇談、関係者ヒアリングなど	課題・将来像の検討 構想案の作成 全体構想、イメージパース、高質化ロゼッタなど
まちづくり方針の決定に向けた議論	ヒアリングの実施 事業説明会、意向把握	ヒアリングの実施 商業像、ゾーニングの取組など
住民や多様な関係者への周知や意見交換	研究会 マリアの関係者等により構成します ワークショップ・フォーラム 住民アンケート調査 住民のみならずまちに参画を呼びかけ意見交換等を行います	研究会 アンケート結果をもとにした意見交換 アンケート結果の報告 町民アンケート調査
	周知・情報発信 かわら版、ホームページなど	

※日数は目安であり、変更することがあります

### エリアブランディングに関する情報を更新していきます！

今後、アンケート結果の報告や地域のまちづくりについての意見交換会を実施する予定です。ぜひご参加ください。



発行 小田原市政策調査課 令和7年5月

## 海・歴史・暮らしのNEWS

— エリアブランディング構想の記録 — Vol.2

小田原市では、御幸の浜・かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの将来都市像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### 第1回研究会を実施しました

研究会は地域住民、商業関係者などの多様な関係者で構成されています。構想の策定主体として、検討を重ねながら、事業対象エリアの構想を作っていきます。

令和7年1月29日（水）に第1回研究会を行いました。

構想の基盤となる「魅力や課題」について、活発な議論を行いました。

次回は10月に開催する予定です。

【研究会メンバー】  
 鈴木 大助 (小田原市漁業協同組合)  
 大澤 新平 (小田原市漁業協同組合)  
 藤田 浩志 (小田原市商工会議所)  
 野澤 浩和 (資物町漁連会)  
 水野 健太 (宮小路漁連会)  
 鈴木 智博 (小田原商議所協同組合)  
 杉山 典人 (小田原商議所協同組合)  
 藤吉 和寿 (小田原かまぼこ通り活性化協議会)  
 小西 聖希 (小田原かまぼこ通り活性化協議会)  
 渡瀬 千廣 (小田原観光協会)  
 橋川 健人 (小田原ガイド協会)  
 川瀬香子 (小田原ガイド協会)  
 高木 美之 (小田原サーフィン連合会)  
 竹田 博隆 (百年地区住民代表)  
 松木 隆俊 (幸地区住民代表)  
 泉屋 謙 (松原神社町神会)

### 研究会メンバーからひとこと

方年地区住民代表 竹田 博隆

この対象エリアには多くの地域の宝が散在しております。改めて自身で魅力の再確認を行い、現存する物にリノベーションを図り更なる魅力の構築を目指してまいります。

幸地区住民代表 鈴木 隆俊

生まれてからずっと住んでいる地域ですが、多様な関係者の皆様とお話しする中で、新しい発見ができ、楽しく取り組んでいます。防災や子育て中の立場からもこの機会にご縁の輪が広がるようなことと思っています。

### 住民アンケート調査について

昨年11月に実施した住民アンケート調査では844人の皆様にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。調査結果の一部を掲載します。

#### ■エリアの魅力について

エリア	件数
御幸の浜	328
小田原宿	218
宮小路	215
松原神社	186
千度小路	186
御幸の浜	149
小田原宿	149
宮小路	111
松原神社	111
千度小路	111
その他	11

#### ■エリアの課題について

課題	件数
観光客の誘引	424
防災対策	315
子育て支援	271
高齢者の生活支援	215
商業の活性化	199
防災対策	199
子育て支援	179
高齢者の生活支援	179
商業の活性化	111
防災対策	111
子育て支援	111
高齢者の生活支援	111
商業の活性化	111
その他	11

■第3号（令和7年8月発行）、第4号（令和7年10月発行）

発行 小田原市政情調査課 令和7年8月

## 海・歴史・暮らしのNEWS

— エリアブランディング構想の記録 — Vol.3

小田原市では、御幸の浜-かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの将来都市像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### 第1回ワークショップを開催しました

令和7年6月14日（土）、第1回ワークショップを開催しました。小学生から高齢の方、最近移住された方など、地域の皆様15名にご参加いただき、「暮らし」「交通」などの分野別に地域の魅力や課題、これからの取組について意見交換を行いました。

参加者からは各分野について、「子供の遊び場の充実」や「小型スーパーなどの買物環境の充実」「魅力的な観光ルートの設定」など、数多くの取組案が上がり、活発な意見交換ができました。次回9月は、今回のアイデアを深めながら、将来像などについて意見交換を行います。

〈ワークショップの様子〉



### 研究会メンバーからの意見をまとめています

構想は地域住民や商業関係者で構成する「研究会」が主体となって策定します。

現在、ワークショップでの意見も踏まえ、具体的な取組の案などを研究会メンバーに聞き取りながら、策定に向けた作業を行っています。



### 研究会メンバーからひとこと

この地域の歴史や文化に触れるたびに気づきがあります。学びを深めながら、未来に誇りを皆さんと共有していけたらと思います。

小田原観光協会の 鈴木 智博

協議会での活動をベースに、店舗運営をしながら地域の皆さまと交流を深めています。自身の子育て、PTAなどの経験も活かして地域課題の解消やより暮らしやすく、みんなにちょうど良い！と思える地域づくりに携われたら...と思っています。

小田原かまぼこ通り活性化協議会 小島 星希

お問い合わせ先 小田原市政情調査課 未来創造係  
Tel: 0462-33-3004  
Mail: se-mina@city.odawara.kanagawa.jp

これまでの記録等は  
はこちらから

小田原市エリアブランディング構想



発行 小田原市政情調査課 令和7年10月

## 海・歴史・暮らしのNEWS

— エリアブランディング構想の記録 — Vol.4

小田原市では、御幸の浜-かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの将来都市像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### 第2回ワークショップを開催しました

令和7年9月6日（土）に第2回ワークショップを開催し、地域の皆様16名にご参加いただきました。

今回はエリアを「商店街」「かまぼこ通り西」「かまぼこ通り東」「御幸の浜海岸」の4ゾーンに分け、各ゾーンにおけるキーワードと取組を考えました。参加者からは各ゾーンについて「海が見える」「昭和レトロを感じる」などのキーワードや、「子供の居場所づくり」「マルシェの開催」などの取組案が上がり、活発な意見交換ができました。

次回12月は、それぞれの取組の実施時期について考えます。

〈ワークショップの様子〉



### 周辺観光地来訪者実態調査を行いました

小田原城や早川を訪れた方に、事業対象エリアの認知度などを調査し、310名の方にご回答をいただきました。

かまぼこ通りの印象や御幸の浜海岸を訪れた目的などを調査し、魅力や課題を再確認しました。



印象	割合
賑やかな印象	25%
落ち着いた印象	20%
懐かしい印象	15%
新しい印象	10%
その他	30%

目的	割合
観光	35%
散歩	25%
買い物	15%
食事	10%
その他	15%

### 研究会メンバーからひとこと

子供の頃から多くの事を教わったこの地域が私の自信であり誇りです。青物町や宮小路が人であれば良かった頃の記憶を思い出して、この地域に活気が戻る事を望んでいました。研究会に参加し少しずつ前に進んでいる事を感じます。住みやすく活気のあるオンリーワンの街づくりを目指します！

青物町商店会 野澤 尚和

小田原から海側への移住者が増え、宮小路商店街でも飲食店が大きく増加しました。商店会として研究会に参加し、観光客や地元の方が集う魅力あるまちづくりに意見を寄せてまいります。

宮小路商店会 水野 健太

お問い合わせ先 小田原市政情調査課 未来創造係  
Tel: 0462-33-3004  
Mail: se-mina@city.odawara.kanagawa.jp

これまでの記録等は  
はこちらから

小田原市エリアブランディング構想



■第5号（令和8年1月発行）、第6号（令和8年4月発行）

発行 小田原市政策調整課 令和8年1月

## 海・歴史・暮らしのNEWS — エリアブランディング構想の記録 — Vol.5

小田原市では、御幸の浜・かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの未来都市像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### 第3回ワークショップを開催しました

令和7年12月6日（土）に第3回ワークショップを開催し、地域の皆様13名にご参加いただきました。

今回はこれまで2回にわたり行ってきたワークショップの最終回として、地域で行っていききたい取組を時系列に並べ、自分たちができていることを考え、意見交換しました。

参加者の皆さんからは、「様々なバックグラウンドを持つ方々と話せて良い経験になった」「このワークショップで繋がれた方々との縁を大事にしていきたい」「自分で取り組めることをやっていきたい」などのご意見をいただきました。

ワークショップで出た意見は研究会で共有し、エリアブランディング構想に反映いたします。



（ワークショップの様子）

### 第2回研究会を実施しました

令和7年10月9日（木）に小田原宿なりわい交流館にて、第2回研究会を行いました。

今回は、ゾーニングと構想の基本方針について議論を行いました。次回は令和8年2月ごろに実施し、3月末までに構想を取りまとめる予定です。

研究会は地域住民、商業関係者などの多様な関係者で構成されており、構想の策定主体として、検討を重ねながら事業対象エリアの構想を作っています。



（研究会の様子）

### 研究会メンバーからひとこと



小田原市観光協会  
副会 大崎

生まれ育ったこの地域、近くに海がある環境は特別な事なんだと大人になって気付きました。今では漁師として日々小田原の海に出ています。研究会に参加し、小田原の海の魅力を少しでもお伝えできればと思っています！



松原神社明神会  
委員 鎌

「松原神社例大祭」は毎年5月3日～5日に執り行われます。兵士の方々には、楽しんでおりますが、この機会に祭りの迫力を多くの皆様に感じてもらいたく、この事業に協力してまいります。

お問い合わせ先  
小田原市政策調整課 未来創造課  
Tel: 0465-33-3404  
Mail: se-mira@city.odawara.kanagawa.jp

これまでの記録簿  
はこちらから  
小田原市エリアブランディング構想



発行 小田原市企画政策課 令和8年4月

## 海・歴史・暮らしのNEWS — エリアブランディング構想の記録 — Vol.6

小田原市では、御幸の浜・かまぼこ通り周辺エリアで、地域の皆様の声をもとにまちの未来都市像を作る「エリアブランディング構想策定事業」を進めています。構想策定までのプロセスをかわら版や市のホームページでお知らせします。

### エリアブランディング構想を策定しました

これまでの検討をもとに「小田原市エリアブランディング構想 御幸の浜海岸・かまぼこ通り周辺」を策定しました。

アンケートやワークショップにご協力いただき、誠にありがとうございました。

皆様からいただいたご意見をもとに、エリアの魅力・課題を整理し、エリアを4つのゾーンに分けてそれぞれの将来像を設定しました。また、6つの分野を設定し、将来像に向けての取組・イメージバースを示しました。

策定にあたっては、令和8年2月10日（火）に小田原宿なりわい交流館にて第3回研究会を行い、構想の最終確認をしました。

構想の内容は小田原市ホームページにて公開しています。ぜひご覧ください。 構想はこちらから



（第3回研究会の様子）



（小田原宿なりわい交流館周辺のイメージバース）

### 研究会メンバーからひとこと



小田原市観光協会  
副会 鎌

このエリアには、古くからの商店や歴史・文化がありながらも、近年では新しい店舗が数多く開店する。新田が心地よく暮らせるエリアになっていると感じています。この魅力がエリア全体に波及し、事業者と住民の皆様が共に豊かになれることを期待して構想の策定に取り組みました。



小田原市観光協会  
副会 千恵

地域の方々の思いや、今に息づくなりわいなど、改めてこのエリアの魅力を知ることが出来ました。点で見ていた場所や人が、エリアとして繋がることで、新しい楽しみ方や多き方が生まれる可能性を感じました。観光協会として、引き続き地域の豊かさと連携しながら、持続的な誘客に取り組んでいきたいと思います。



小田原ガイド協会  
川原香智子

人気の石ころ海岸をはじめ海鮮グルメ、松原神社例大祭や旧東海道など多方面に渡る観光資源が凝縮した貴重な地域だと再認識しました。住民の皆様と共に御幸の浜の魅力を多くの方に紹介していきたいと思えます。

お問い合わせ先  
小田原市 企画政策課 政策調整課  
Tel: 0465-33-3404  
Mail: k-seicho@city.odawara.kanagawa.jp

これまでの記録簿  
はこちらから  
小田原市エリアブランディング構想



## 小田原市消防本部救急ワークステーションの設置及び運用について

### 1 概要

救急ワークステーションは、高度化する救急業務に対応するため、救急救命士が医師・看護師からの指導・助言を受け実習を行う拠点である。

また、重症案件の救急要請があった時は、医師を同乗させ活動内容に対する指導や助言を受けながら、現場での迅速で的確な処置を行うことができるものである。

そこで、本市消防本部では、令和6年8月に小田原市消防本部救急ワークステーション整備基本計画を策定し、小田原市立総合医療センター（以下「センター」という。）内に設置する準備期間を経て、令和8年5月のセンター開院に併せて救急ワークステーションを設置した。

今後は、センター内での実習を開始すると共に、管内の救急需要がひっ迫した際には救急隊として現場に出動することを先行して運用し、6月頃から医師が同乗できる体制の試行運用を経て、秋頃に本運用ができるよう準備を進めていく。

### 2 設置の目的

#### (1) 地域の救急医療体制の充実強化

ア 救急救命士の実習拠点

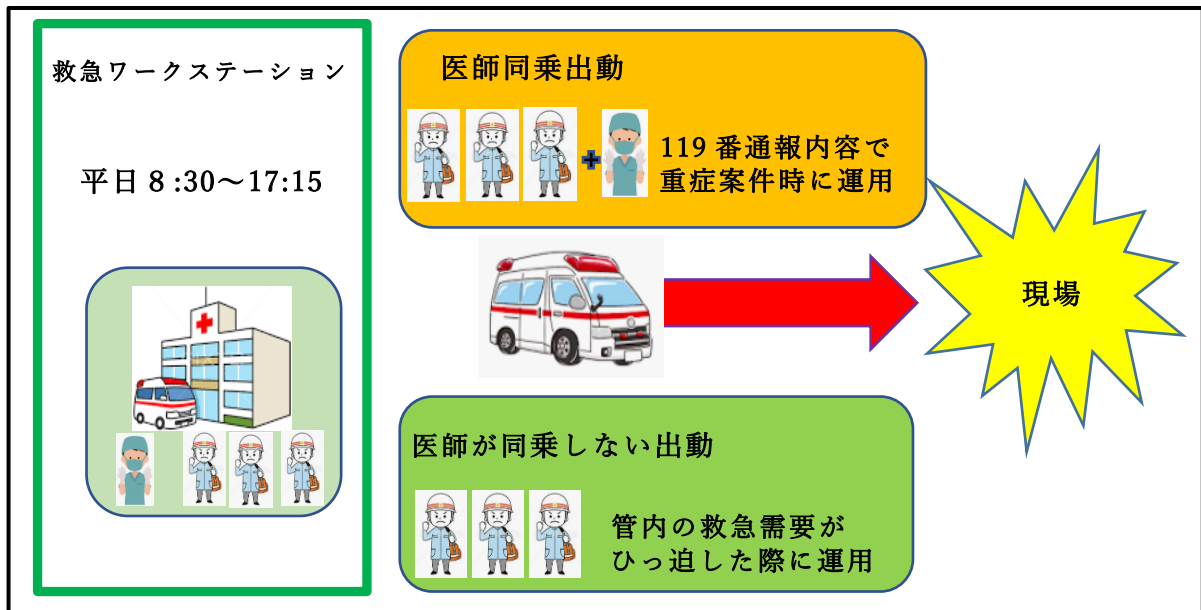
イ 救急救命士の知識・技術の向上

ウ 重症傷病者へ救急救命処置が必要な場合、医師が同乗して出動

#### (2) ひっ迫している救急需要対策

救急隊として現場へ出動（医師が同乗なし）

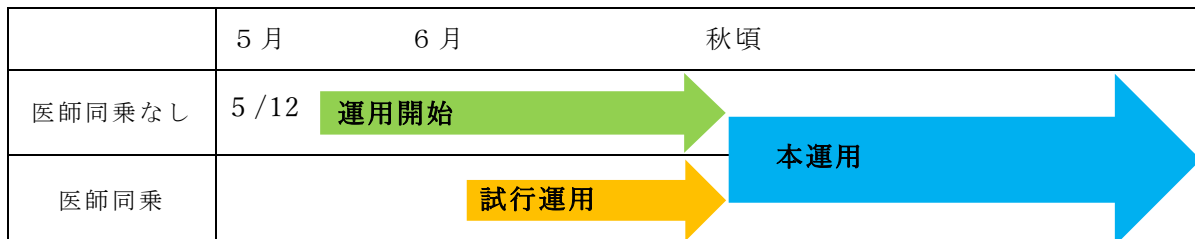
## 救急ワークステーションのイメージ図



### 3 今後の予定

5月12日から病院内での実習と、管内の救急需要がひっ迫した際には救急隊として現場へ出動（医師同乗なし）する運用を開始する。

6月頃から医師が同乗できる体制の基準を精査しつつ試行運用し、秋頃を目途に本運用を目指す。



#### 4 救急ワークステーションに配備する救急車



救急車のデザインは市内の高等学校の生徒が考案したものを採用した。

参考資料 2-1

小田原市消防本部  
救急ワークステーション  
整備基本計画

令和6年8月

救急課

## 小田原市消防本部救急ワークステーション整備基本計画

本整備基本計画（以下「基本計画」という。）は令和8年にオープンする小田原市立病院に併せて運用を開始する、小田原市消防本部救急ワークステーション（以下「救急ワークステーション」という。）の整備・運用等に関する基本計画を定めたものである。

小田原市新病院建設基本計画(令和2年12月策定)でも、救急ワークステーションの整備について記載されている。

### 1 目的

#### (1) 地域の救急医療体制の充実強化

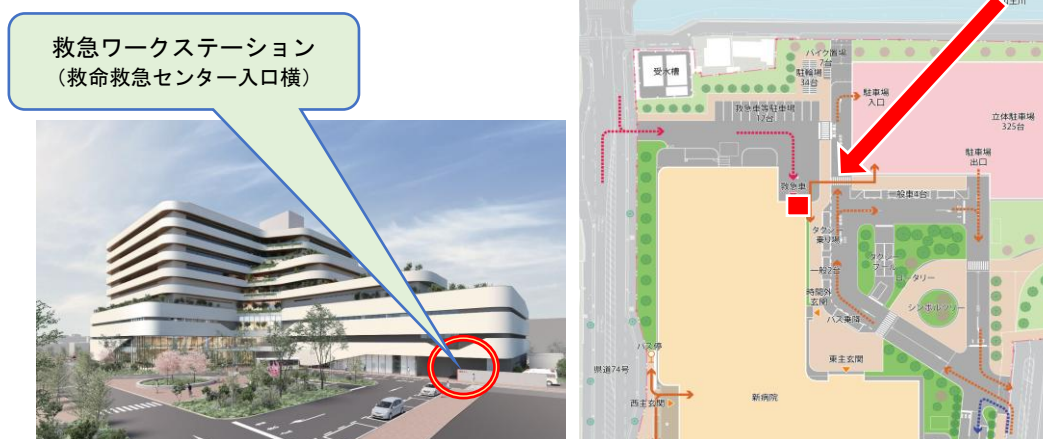
- ア 救急救命士等の実習拠点
- イ 救急救命士等の知識・技術の向上
- ウ 重症傷病者へ救急救命処置が必要な場合に、医師が救急車に同乗して出動

#### (2) ひっ迫している救急需要対策

通常の救急隊として運用

### 2 整備場所

小田原市久野46番地 小田原市立病院救命救急センター内



### 3 整備スケジュール

令和8年新病院開院に合わせて運用開始予定

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
新病院	新病院建設工事			新病院開院
ワークステーション	整備基本計画策定	運用基準の策定	ワークステーション整備	運用開始
		予算要求		

### 4 救急ワークステーション設備等

#### (1) 救急ワークステーション指令設備等

救急ワークステーションに指令設備及び無線設備等を整備する。

#### (2) 救急ワークステーション隊運用車両

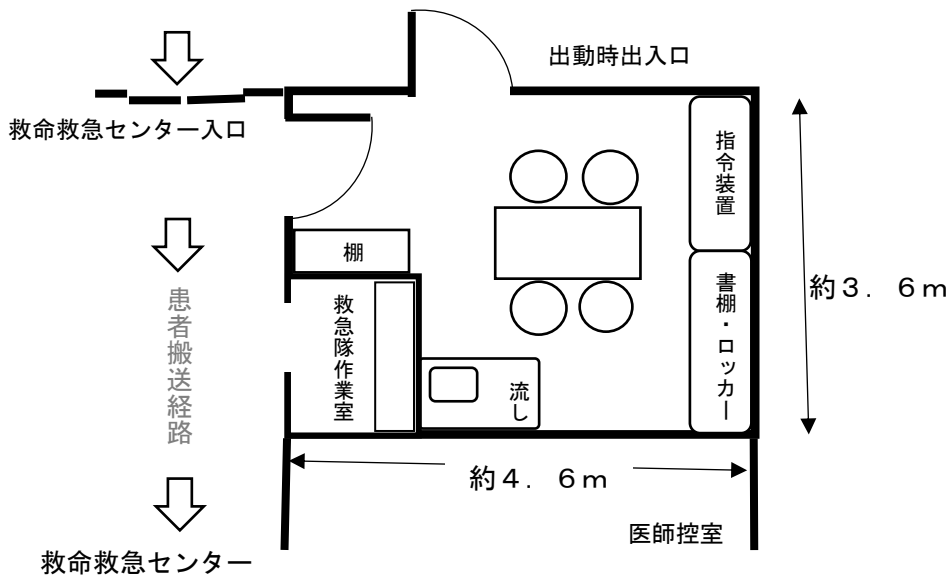
ア 救急ワークステーション隊運用車両として、救急車を配置する。

イ 駐車場所は、小田原市立病院と協議した上で決定するが、救急処置室からスムーズに出動できる場所とする。

ウ 救急車には、車両AVM装置、車載の消防救急デジタル無線、携帯電話等の装備を新規に整備する。

#### (3) 賃料について

救急ワークステーション室は小田原市立病院と賃貸契約を結ぶこととなるため、年間の賃料について確認が必要である。



救急ワークステーション・イメージ

## 5 費用

### (1) 初期費用

- ア 救急ワークステーション室設備工事費用
- イ 什器類
- ウ 救急ワークステーション指令装置等
- エ 庁内ネットワーク PC 増設
- オ 訓練資機材
- カ 救急車両資機材

### (2) ランニングコスト

- ア 救急ワークステーション室使用賃料（病院と協議）
- イ その他（水光熱費等）

## 6 救急ワークステーション業務

- (1) 救急救命士再教育実習等
- (2) 救急隊としての出動
- (3) 指導救命士育成

## 7 職員派遣体制

### (1) 救急ワークステーション要員

- ア 救急課所属の救急救命士 1 名を専任派遣する。
- イ 救命救急センター内で救急救命士研修指導、救急ワークステーション隊隊長及び病院実習事務等を行う。
- ウ 湘南地区メディカルコントロール協議会が定める指導救命士制度運用要綱第 4 条の認定要件（救急ワークステーションの指導的立場の救急救命士として、日常的に他の救急救命士等の指導、育成に 1 年以上継続して従事した者）を満たすことで指導救命士資格が取得できる。

### (2) 救急救命士再教育実習派遣

- ア 小田原消防署及び足柄消防署から常時 2 名の派遣を基本とする。
- イ 救急ワークステーション隊員を兼務する。
- ウ 派遣期間は 3 週間、日勤対応とする（2 年に 1 回の派遣対応）。

### (3) その他

再任用職員等の活用について検討する。

## 8 救急ワークステーション隊の運用

### (1) 救急ワークステーション隊運用方式

- ア 救急ワークステーション隊

- (ア) 救急車内で救急ワークステーション実習を行う。
- (イ) 隊員3名は(救急ワークステーション要員1名、実習派遣消防職員等2名)及び医師が同乗する。
- (ウ) 出動は「心肺停止」「重症外傷」等のキーワード方式とし、詳細は別途定める。
- (エ) 出動範囲は今後調整する。

#### イ 救急隊

- (ア) 救急需要対策として、通常の救急隊で出動する。
  - (イ) 隊員3名(救急ワークステーション要員1名、実習派遣消防職員等2名)とする。
  - (ウ) 全隊出動した場合の13隊目として出動する。
  - (エ) 全管区に出動する。
- (2) 運用時間は日勤時間帯
  - (3) 運用の詳細に関しては別途定める。

### 9 協定書の締結

救急ワークステーションを運用するにあたり、小田原市消防本部と小田原市立病院で協定書の締結を行う。